

心理臨床の 広場

特集

- ① 犯罪と心理臨床
- ② 心理臨床の地域性

対談

長州力×人見健太郎

WORLD MAP 富樫公一先生



25

Vol.13 No.1 Aug. 2020



一般社団法人
日本心理臨床学会



人見…今日は「心」の話をしたと思ってしまして、長州さんには「俺に聞くなよ」とか言われそうなんですけど……。

長州…うん。反対にこっちがプロフエッショナルの先生に聞いてみたいよね。先生はイギリスにいたとき、何の勉強をしていたの？

人見…精神的な領域ですね。

長州…イギリスというのは、そういうのが結構……。

人見…フロイトという人がいてです

ね。

長州…ああ、何か聞いたことがある。

人見…フロイトはユダヤ人だったのでナチスの迫害を受けて、最後はロンドンに移住して亡くなったのでお弟子さんたちがたくさんいて、そういう意味では本場なんです。

長州…その……心理学というのは自分に「問う」わけですか？

人見…やっぱり自分のことが一番わからないので……。

長州…えっ？ 自分のことは自分が

一番わかるんじゃないの？ 違うの？

人見…「なんで自分はまた同じことをやっちゃうのかなあ」なんていうときがあったりしませんか？

長州…ああ。まあ自分というか、それが人間なんじゃないの？

人見…はい。でもそれを「なんでそうなるのかなあ」と考えていくところが精神的な世界にはあるんです。まるで答えのない世界に毎日毎日いるという感じで、そこで目の前のクライアントさんの話を聴いて

……。

長州…相手が少しでも悩み事から抜け出せるようにアドバイスするわけですか？

人見…それは流派によって考え方が違いますね。

長州…流派!? それはどういう意味？

人見…いろんな治療法があるんです。例えば、人前になると緊張してしまいう人がいたときに、そのドキドキするという症状を出なくすることに集中するアプローチと、「なぜドキド



長州力 × 人見健太郎

Riki Choshu

Kentaro Hitomi

巻頭対談



キするようになったのか一緒に考えていきましよう」というアプローチと、大雑把に言ったらそんなものがあるというイメージですね。

長州…大変だね。確かに答えのない世界だ。

人見…そうですね。専門家同士でも意見が違っていたりするのです。あと、やっぱり世の中の人にわかってもらえないと、「心の専門家っていうけど何をやっているの?」とか言われちゃうわけです(苦笑)。

長州…昔からあるのかもしれないけ

ど、「うつ」ってあるじゃない? うつには高いときと低いときがあつて……。

人見…はい、「躁うつ」と言ったりしますね。

長州…一人ね、親しい友人がいて、気分がいいときには朝から電話がかかってくるの。突然どこかへ行こうとか、もう聞いている相手を無視してどんどん話しかけてくるの。「お、何だ、機嫌がいいな」と思ったら実はそうではなくて、「その人は楽しいんじゃないかって、あなたに助

けを求めているんだ」と説明されたことがあるの。本人は笑っていつばい話すけれども、気分が高揚すればするほど、ものすごく苦しい状態にあるんだって。そう聞いたら、「じゃあ、もうちょっと接し方を考えたらよかった」と思ったよ。

人見…はい。今まさに長州さんがおっしゃったようなことを、本当は僕たちのような仕事をしている人間が積極的に伝えていかなければならぬんですよ。「いや、そういうことではないんです。実はこういうことなんですよ」と知ってもらえたら、「ああ、そうなんだ」と長州さんのように関わり方を変えることができますから。

見えない世界へ向けて

人見…ところで長州さんは精力的にSNSに取り組まれていますか、やっぱり楽しいことという感覚ですか? もちろん仕事という面もあるでしょうけど。

長州…まずは見てくれる人を笑わせてやろうという気持ちがあるよ。その日に面白いことがあったら、それをちよつとオーバーにして書いてる。実際に起きたことにちよつと盛って

(笑)。基本的には笑ってほしいの。**人見**…おそらく昔の長州さんのプロフィールを見ていた人たちからすると、ギャップがすごいと思いますよ。長州力という選手は笑いと無縁だったわけですから。

それで今はツイッターのフォロワーが五三万人もいるんですね!

長州…人数が増えていくことについて、スタッフたちが驚いているのか喜んでいいのかはよくわからないけど、ツイッターはね、最初はLINEの延長みたいなものだと思って。まあ失敗が多かったんだけど、別に気にはしてないです。今は、あれはもうツイッターじゃないとか。俺のツイッターに返信してくる人もツイッターの使い方をしないしね。

人見…ああ、確かに長州さんに対する個人的なメッセージになってるかもしれないですね。

長州…何かお互いのやりとりをみんなに見せてみたいになっちゃって。

人見…それで、長州さんはブログだと返信をするんですね?

長州…ああ、あれはたまたま携帯を変えたら、その携帯がすぐ返信しやすかったの(笑)。俺でも簡単にできる。前のやつはちよつとしんど

かった。

人見…ブログはツイッターよりも気楽ですか？

長州…ああ、そうだね。ツイッターだとやっぱりちょっと硬い話になったときに、なかなか自分の気持ちを伝えられないというか。それを一四〇文字の中で伝えようと思ったら、言葉を難しく考えてしまつて、そうすると今度はその文章が何か俺じゃあねえなというような感じになつちゃうの。ブログは短くても長くてもいいからね。

人見…ああ、なるほど。

長州…それで返信もするし。返信するのが楽しいというか。そうするとまた返ってくるし。やっぱり俺のファンだという人はプロレスのファンが多いから、俺から何か返ってきたら嬉しいと感じてくれるんじゃないかな。だから短くても、ちょっと「ありがとう」とか書くと、何か相手側に伝わったという感じがあるよね。

人見…SNSのことで言うと、今回、新型コロナウイルスの影響があつてツイッターなんかがすごく荒れたりしたのは、外に出られなくなった人たちのストレスというのがやっぱりあつたのかなと思います。

長州…みんな初めての体験だからね。でも、こんなふうになつちゃうんだなというのはあるよ。俺はツイッターを書いて、もしかしたら何かカストレスを溜め込んでいるようなことを書いているかもしれないけど。だから、気をつけているのは、相手を傷つけることは自分の文章からは発しないようにしていることだね。

人見…長州さんは新型コロナウイルスのことでは、「皆さん、我慢しましょう」「頑張りましたよ」と呼びかけられていますよね。

長州…それはやっぱり心配だし。「頑張ってください」と言われたら「ああ、お互いに頑張りましたよ」と言うのと一緒にです。一人一人にそれをやっていたら大変なことになっちゃうけど。

でも、少し注意しているのは、俺が書いたことに返信してくる人間は、もう大体こつち側寄りの意見を書いてくるの。「そうです。僕もそうです」と。みんなそう言う。だから、それは俺にとっては回答にはならないわけです。

人見…ああー。

長州…うん。みんなこつち寄りで、「私もそうなんですよ」と。そうやって書いてくる人間が多いから。あ

とね、こちらは実名でやっているけど、中には間違いなくすり替えているやつもいると思うんだよね。

人見…「すり替え」ですか？

長州…ツイッター上ではうまく対応はしているけれども、また違うところに出たら、ずっと何かを誹謗中傷したり揶揄したりしているとか。

人見…使い分けたり、なりすましたりという感じですか？

長州…ああ、そうそう。俺の前に出てくるときは、親しげに「私はいつもこういう感じです」と振る舞う。

でも、ちょっと違うところに行った場合にどうなるのか。もうこつちが察しないとそれはわからないよね。

人見…なるほど。

長州…「何なんだこいつ、変わった野郎だな」と思うことはあるよ。そういうやつって、今まで書いていたことが急に変わって揶揄しだすの。「ああ、こいつはやっぱりどこか違うところに行けばすり替わっちゃうんだな」「それで、自分のそういう姿は見られていないと思っているんだろうな」と。



そういう人間は何となくわかるよ。何となくわかる。それが当たっているか当たっていないかはわからないけれども。世の中そういうふうになっている人は、たぶん多いんじゃないかな。ここではこうだけれども、向こうでは違うという。コロナと一緒にね、見えないんだから。でも、影響だけはあるんだ。とんでもない影響は。

人見…コロナと一緒にSNSの世界は見えないというのは、今のはすごく大事な言葉ですよ。

時代ではなく人間が変わった

長州…ツイッターをしているとね、世間を騒がせる事件があったときに「何なんだ、こいつは！」となっちゃう。

人見…はいはい、そう書いていたことがありましたね。

長州…ちよっと感情的になって書いてやう。そうするとスタッフたちが「ちよっとこの投稿は削除したほうがいいです」と言ってくる。

最近ちよっと驚いたのに、少年たちがホームレスに投石して殺した事件があったんだけど、それこそ「どういう心境でこういうことをやるの



か」「一体何なんだ？」って思うよ。なぜ大学まで行かせてもらった人間が、なぜ橋の下に住んでいる、誰が見たってそんなところに住みたくなけれども住まざるを得ない状態の人に対して石を投げるのか？ 誰か一人ぐらい止めようとするやつはいなかったのかって。

人見…もちろん自分がその場にいたわけではないから断言はできないんですけども、集団心理ということはあると思うんです。

長州…じゃあ、あそこにはいた何人かの人間というのは、その場で同じ考えを持っていたっていうこと？

人見…例えばですが、いじめでも同じようなことが起きると思うんです。

クラスの中で誰かがいじめられているのを、誰も止めないでエスカレーターしていくという。

長州…ただね、そこまでやるかっていうのがあるよ。石を投げて人を殺めるっていうね。親をボウガンで撃ち殺す事件もあったでしょ。その考えがどうやったら湧いてくるんだと。**人見**…そうですね、スイッチが切り替わっちゃっているというか、普通の心理状態ではできないはずですよ。

長州…昨日まで愛想よく挨拶してた人が、次の日にボウガンで家族を殺すわけでしょ。じゃあ、前の日に何を考えていたのか。親はそれをわからなかったのかとは思うよ。

子どもって生まれたらそのまま放っておいても勝手に育っていったって、勝手に物事が考えられるようになって、その子の考えだけでああいう事件を起こしているのかな？ じゃあ、親はそれに対して「ああ、こういう子に育つんだな」と後から気づくのか？

人見…そのあたりのことは報道されていませんし、親がどういう子育てをしていたのかというところまでわかってくると、私たちのような人間も発言しやすくなるんですが……。ただ、今、子育てをしている人たち

だって、昔と変わらず一生懸命子育てをしている人はたくさんいると思います。

長州…子どもを育てるということについては、今の時代と俺の時代のズレはあるよね。ズレというか、まったく違うなという。俺がガキの頃は、月曜日の一時間目は絶対に「道徳」の授業だったんだよ。

人見…えっ、そうなんですか。

長州…月曜日の一時間目はそうなの。「道徳」の意味すらわからないで真面目に聞いていたけど。まあそこで聞かされることは、簡単に言えば、やっていいことと悪いことだよ。弱い者をいじめては駄目とか。それは今の時代でも変わらないと思うんだけど。

だから、さっきの事件でも反対にホームレスの方が、「向こうへ行け」とか言って石を投げてきたわけでもないだろうし、その弱い人間、何もしてこない人間に対して、なぜあえてそういうことをするのかというのがあるよ。

俺はやっぱり、もう古い考えと言われるだろうし、こういう言い方をするのも悪いですが、親も罪を負うべきで……。

人見…うーん。

長州..そういう人物を育てたものとして、そこに「社会」という言葉に当てはめるんだと思ったら、その前に「家族」だろうとは思う。「社会」を当てはめられたら、これはもう人間との付き合いなんか、誰ともできないんじゃないかな。

人見..今はよくも悪くも「個人の時代」みたいになってしまつて、子ども部屋を親が見たら子どもが怒り出すという、そういうことも背景に影響しているのかなと伺つていて思いました。

長州..先生や教える人の側にも、「おまえ、本当に子どもに教えられるの?」という、世の中の不信感みたいなものもあるよね。

人見..はい。

長州..あまり先生の側を追い詰める言葉はよくないし、指導者の暴力は決していいことではないけれども、何なんだろうな、俺が子どもの頃は何かあったときには殴られた。それが当たり前。まあいいことではないよ。いいことではないんだけど、「ああ、確かに俺がこういうことをしてかしているから殴られた。うん、だから、これはもうやらない方がいいな。でないとまた殴られるぞ」というようなことは感じた。今は、学

校の先生が何か脅えながら子どもたちと接しているというか……。

人見..それについては、僕もスクールカウンセラーという形で今の学校現場に行くわけです。そうすると、やっぱり自分が子どもだった頃に見ていた先生たちというのは、裏側を知らないだけかもわからないですが、上からガンと怒つてたわけです。で、今の先生たちは、こういうことを言つたら子どもたちがどうなるかなというのをずつと気にして、もう考え過ぎちゃつて何も言えなくなつていて先生もいるかもしれないです。全員ではないと思いますが。

長州..そういうのは、時代が違うつて言うの? **人見**..ああ、どうでしょう。**長州**..時代が違うのではなくて、人間が変わつてきたのではないの? **人見**..確かにだいぶ変わつてきているんでしょうね。例えば、コンピュータゲームなんかが出てくる。僕たちが子どもの頃なんてゲームがなかったから、当然外で遊んでました。でも、ゲームが出てきてだんだんそういうことが様変わりしていく。今の子どもたちは、もう生まれたときからすぐそばにゲームがあるわけですね。

やつぱり似たようなところで、今ちょっと不安に思うのは、親が赤ちゃんと育てているときに、例えば、おっぱいをあげているときに何をしているのかといったら、赤ちゃんの目を見ないでスマホでLINEに返信しているんですね。そうやって目と目を見る機会がずいぶん減つてきたりしているとか、いろいろと指摘されているんです。

その影響で、こういう子どもが育つていくのかというのは、なかなか一概に言えないんですけど、でも、おっぱいを飲んでいるときにお母さんの目を見るのは、人間の赤ちゃんだけらしいです。

長州..じゃあ、その子どもの母親は、どうやつて自分の母親を見ていたの

だろうか。その母親の親も……。

人見..それは、たぶんそういうことはなかったのでしょうね。だから、今、一生懸命子育てをしている人に誤解があつてはいけないなと思つているんですけど、やつぱり「ママ友」の圧力というのもLINEなどでのやりとりが出てきたことで、すごく強くなつて。つまり、すぐに返事を書かないと仲間外れにされたりするわけです。

自分が守れるものを守る

長州..うん、俺はね、要するにいいめとか差別つて、確かにいいことではないのはわかるけれども、俺はもうなくならないと思うんです。

人見..長州さんは、ずつとそうおっしゃっていますよね。

長州..うん、なくならないと思う。**人見**..それは、やつぱり長州さんご自身の国籍のこともあるのですか? **長州**..うん、ある。それにこだわつて言っているわけではないけれども、差別やいじめというのは、時代が違うとかじゃなくて、どこからでも生まれてくるから。だから、そこから自分を守るためにはやつぱり強くな

るしかない。強くなればいいんだ。



自分で自分を守る。だから、俺の親も強かったよね。強かったということは、やっぱり親は子どもたちを守るために強くなったんだろな。そうしたら、またその子どもたちも、いいのか悪いのかはわからないけれども、また自分たちが大きくなって子どもができたら、やっぱり同じ世界をつくっていくんだろな。

人見..長州さんは親から殴られたりしたこともあったんですか？

長州..あつたよ。

人見..でも、一方で、守ってもらっているという感覚もあったわけですよね？

長州..ああ、あるある。

人見..それで、どうなんでしょう。今の親の守り方というのは、もちろん長州さんの親のような守り方もあるかもしれないですが、今はいきなり学校にクレームを言うとかそういうことが多くなっていますよね。

長州..それはテレビのニュースを見ていればわかるし、何かつまらないことをみんなで話題にしているなどというのはあるけど、もうそれが現実の今の世の中だし。反対に、今の世の中の方が、けっこう「どぎつい」というか、ヘイトでもどぎついし、そこまでやるかというのがあるよ。



そして、言われている方も脅えてはいるけれども、何かをまた仕返ししてやろうというように見える。

昔はね、やっぱり弱い人間はずっと最後まで弱かったんだよね。いじめられる方に最後まで強くなるとういう気持ちになかったというか、俺にはその考えはわからないけれども、俺はやっぱり何か体を動かして、力もつけて、言われないようにしようとしたよ。反対にそうしないと、差別もいじめもなくならない。相手はやめない。俺がそいつより力をつけ

たところを見せないと、絶対にやめない。

だから、簡単に言えば、もう差別とかいじめはなくならないよ。今でもいろんな国で戦争をやっているわけだから。

人見..そうですね。だから、私たちが一生懸命やろうとしているのは、学校の中で、もちろんいじめとかそういうことはしないようにしましようということ、先ほどの道徳の授業もその一つみたいなことなんですけど、それでも現に起きるわけです

ね。起きたときにどう発見して、どう対処していくかという……。
長州..でもそれは、たぶん俺が生きている限りはなくならないと思う。だから、何ができるかと思ったら、俺の心の中に入ってくるなよということだよ。

人見..ああ、はい。

長州..俺のことをどう見ようが、どう考えようが、ここから先はもう俺の世界に入ってくるなというのは気持ちの中にあるね。うん、あるよ。その代わりこっちも、その嫌なものを見たくないし、何かをしようとも思わないし。そうしながら、また次の時代を迎えていくしかないんじゃないの。わからないけど。ただ、なくならないだろうね。だから、なくならないものに対して、みんなが協力しあって少しでもどうにかしようとすることはわかるよ。でも自分ができるのは、自分だけのものを守るということしかないよね。

人見..そうか。長州さんは守るものをきちんとつくれたのかもわからないですね。でも、僕たちの前に登場するような人、かつていじめられたという人は、これがつくれないんですよ。「入ってくるな！」がつくれなくて、わーっというんなものが入

ってくるのではないかと思うんです。
長州…いや、それはつくれないのではなくて、自分でつくらないんじゃないの？ 違うんですか？ やっぱつくれないのか。

人見…ずつといじめられてきていた人たちはいろんな症状が出てきりするんです。「フラッシュバック」のように嫌な記憶が突然よみがえったり……。

長州さんはそこで、「入れないよ」「守るものは守るよ」ということができたわけですね。

長州…俺はね。で、守るといったらやっぱり家族でしかない。友人や仲間を守るというのは、今の時代にそれはないような気がするね。今はやっぱり家族だよ。孫もいるし、子どもたちもいるし。やっぱり一番大事なもののだし。

俺は俺なりの形で家族というものをつくり上げているけど、それがいいのか悪いのかは、俺にはわからない。世の中すべてがそうではないというのにはわかってるし、俺のこういう考えもまた物議を醸すかもしれないけど、ただ、なるべく今の自分たちの家族に対して必要のないものは入ってこないようにしている。テリトリーの中に変なものはいれない

というか。

それは家族に対しても同じだよ。みんな苦しいこともあるし嫌なこともあるだろうけど、「今は俺がつくったものの中にみんな収まっていかなければ駄目だぞ」というのは、たぶん理解できていると思うよ。そこから外れることをしたら、どういうことになるかという怖さもわかっていると思う。年に一回ぐらいは落とすときがあるからね。

人見…それは「雷」をですか？
長州…うん、落とすときがある。そ

れは、普段の怒り方ではないというのはわかると思う。声がめちゃめちゃ大きくなるし。

人見…最近そういう怖いお父さんというのはいすごくいなくなっちゃった感じがしますね。

長州…別に怖がらそうとしているわけではないけど。だから、娘たちもいつもバカなことを言って、まあ楽しくやっているけれども、あまりにもふざけ過ぎたら、落ちるっていうのがわかるようになってるよ。

人見…ここまでの話で「親とは何

か」ということが語られているように思うのですが、長州さんは「俺はこうだぞ」ということを、責任を持って家族に示しているという感じがしますね。

長州…ああ、親はやっぱり「責任」じゃない？

俺はもう親というのは、たとえどう言われようが、自分の子に対して責任をどう取るかだと思うので。だから、さっきの事件の話でも、お巡りさんが家に来て、「息子さんを逮捕します」と言われて「えっ」とまじ驚くだろうけど、「まさかうちの息子が……。」とみんなそこで思うのかな？

人見…そういうことは長州さんの中ではあり得ないですね。

長州…いや、本当によくそういうセリフを聞くけれども、そのときの親ってどういう反応を示すのかなと思ってる。親の顔はどういう具合になるのかなって。

俺の親はね、怖いと感ずることもあったんだけど、その反面それ以上の優しさというのがあったんだよ。殴られているのにやっぱり優しさも感じているんだよな。守ってくれるのは、うちの母親であり、父親であり、兄弟きょうだいでありというのは、今でも



感じているよね。そういう育ち方を
してきているなという。

やっぱり俺は、親の責任も問うべ
きだと思ふ。うん、問うべきだろう
なあ。

人見..長州さんの「責任」の中には
「覚悟」というものがありそうです。

長州..その責任はあくまで自分に対
しての責任だから。周りにいるやつ
に「おまえたちも一緒だよ」という
のは求めないよ。これは俺の責任で
やるという。親として、そういう問
題が起きたらね。まあ起きないこと
を願って毎日過ごしていますけど。
常にちゃんとやっていても、やつぱ
り心配だよ。もうどんなに子ども
たちが大きくなるうが。

俺は、もう親も一緒だなと思うん
だよ。だから、さっきのような事件
を起こす子どもが育つ今の世の中は
わからないし、許せないよ。どうし
てそういうふうになるのか、俺は本
当にわからないよ。

人見..長州さんの「俺はわからな
い」というその「わからない」に、
きつと私たちは答えていかなければ
ならないとは思ふんですけれど。
長州..うん、でも、それはたぶん無
理だよ。

人見..ああ、長州さん……。



長州..無理だよ。もうそれはねえ、
無理だろうと思う。よくテレビとか
で、「あなたの気持ちはわかります」
って言うてるでしょ。おまえに何が
わかるんだって（笑）。

俺の場合はね、もうガキの頃から
かな、「おまえに俺の何がわかる」
って口ぐせみたいなものだからね。
これを言うと、なぜみんなが笑うの
かはわからないけれども。「俺の何
がわかって言ってるの？ おまえは
身内か？」って。

たぶん、俺がどういう人間になっ

ていくかというのは、やっぱり母親、
父親、あと少なからず兄姉の影響が
あるはずで。今までずっと見られて
いるし、家族が「こいつはこういう
やつだ」って言うのは、当たってい
るよ。少なくとも違和感はないよ。

人見..はい。

長州..同じようなことを、全然知ら
ない人間とか、友人からでもいいけ
ど言われたりするのと、「こいつ、俺
の何がわかってるんだ」といつも思
うよ。まあアドバイスとかそういう
のは、区別しながら聞くことはでき
るけどね。

人生は平等で一瞬

人見..残念ながら時間がきてしまっ
たんですけど、最後に、私たちがい
るような業界を目指す若い方たちに
何かメッセージはありますか？

長州..若い人たち……。だったらあ
れだよ。人生、生きていくのにどん
な人間でも時間は平等なんだよ。二
四時間なんだ。それをどういう具合
に自分で考えるか。もうちよつと責
任を持って事を運んでいかないと、
とんでもないことになっちゃうよ。

人見..長州さんがよく言われる、
「瞬きしている間だぞ」ということ

ですね。その自覚を持った方がいい
と。

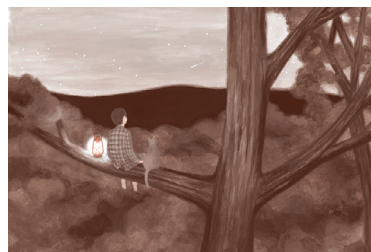
長州..そうそう。そうしないと、も
う「浦島太郎」だ。ほんとあつとい
う間だよ（笑）。

長州力（ちゅうりきゅう・りき）

元プロレスラー。一九五一年二月三日山
口県生まれ。専修大学時代にレスリングで
活躍し、一九七二年ミュンヘンオリンピック
に出場。一九七四年八月八日、アントニ
オ猪木率いる新日本プロレスにてデビュー。
デビュー当時は本名の「吉田光雄」であつ
たがのちにファン公募で「長州力」に改名。
一九八二年から始まった藤波辰巳（現・辰
爾）との抗争は「名勝負数え歌」と称され
史上空前のプロレスブームを巻き起こした。
二〇一九年六月二六日、東京・後樂園ホー
ルにて引退。

人見健太郎（ひとみ・けんたろう）

みとカウンセリンググループみどり所長。
一九七三年茨城県水戸市生まれ。一九七
七年、茨城大学大学院修士課程人文科学研究
科修了。大野クリニック（現・医療法人南
山会 柵町診療所）を経て、現職。二〇〇
一年〜二〇〇二年、英国タヴィストックク
リニック 思春期青年期部門留学。著書はい
ずれも共著で『学校臨床に役立つ精神分
析』（誠信書房）『力動的的心理査定』（岩崎
学術出版社）他。臨床心理士。



装画 わたべめぐみ

巻頭対談 長州 力 × 人見健太郎 01

巻頭言 心理臨床の専門性や独自性とは 杉江 征 10

Special Feature Articles

特集1	犯罪と心理臨床 責任編集：山崎孝明 11
	犯罪と心理臨床 岩倉 拓 12
	おもしろうてやがて悲しき精神鑑定 松森基子 14
	プロファイリング 高村 茂 16
	受刑者のカウンセリング 後藤龍太 18

特集2	心理臨床の地域性 責任編集：葛西真記子 23
	心理臨床の地域性【北海道】 寺崎真一郎 24
	心理臨床と東北 清水めぐみ 26
	災害支援とアウトリーチ 中垣真通 28
	四国での心理臨床——四国遍路とともに 井ノ崎敦子 30
	心理臨床の地域性：沖縄県 野村れいか 32

心理臨床なう 責任編集：津川律子 38
N I C Uの心理臨床 黒澤奈々子 39
児童相談所 福間 徹 40
同性パートナーシップ制度 ほそみたく 41
S N Sリテラシー 海面 敬 42
E A P電話相談 岡田和久 43
医療観察法 壁屋康洋 44
カップルカウンセリング 園田雅代 45

Serial Articles

こころのリフレッシュ 「趣味」と「リフレッシュ」	柴田彩花 20
先生たちの卒業論文——佐藤忠司先生	内田 亮 22
心理臨床学会から 四〇周年記念事業検討専門部会	田中新正 34
てんてん こころの広場に行く その8	細川韶々 36
WORLD MAP 国際的に活躍する日本人臨床心理士をご紹介 富樫公一先生	池 志保 46
心理臨床家の養成 広島大学	岡本祐子 48
札幌国際大学	佐々木淑子 50
初心者のためのブックガイド 『居るのはつらいよ——ケアとセラピーについての覚書』	本田賢介 52
『曠野の花——新編・石光真清の手記(二) 義和団事件』	西河正行 53

臨床心理士資格審査の受験資格を取得することができる大学院	54
公認心理師養成機関の情報	55
編集後記・事務局だより	津川律子・井村 修 56

巻頭言 心理臨床の専門性や独自性とは

——多職種連携の中でみえてきたこと

筑波大学 杉江 征

日本心理臨床学会が設立されてから、約四〇年になります。この間、「臨床心理士」や「公認心理師」という専門資格や国家資格ができました。これは、多くの先輩や会員の方々が日々の心理臨床の実践の中で積み上げてこられたことが社会的にも認められてきた証であると思います。またさらに、その実践は、社会の中の様々な場面や領域に広がってきていて、それぞれの専門性を生かした多職種での連携や協働が進められています。

このように社会的にも、また資格という形でも認められてきた、私たちの専門性が一体何かということ、今、改めて実践の中から言葉にしてみたいと思います。本学会の職能委員会では、四年くらい前から、多職種連携における心理臨床の専門性や独自性についてというテーマで一連のシンポジウムを行い、様々な領域でご活躍されている心理臨床家の方々に、それぞれの実践を語っていただきました。

これらの一連のシンポジウムの中で、ひとつの共通点が見えてきました。それは、心理臨床の独自性や専門性

は「心理臨床家ならではのクライエントの理解の仕方」にあるというものでした。職能委員会でも議論をしたところ、この理解の仕方は、症状や問題行動などの見立てや理解についての知見ともいえる「知識の部分」と、相手の在り方をみながら対応するかかわり方の部分「関係性の部分」とに大きくまとめることができました。

「知識の部分」はこれまでも学問として構築されてきており、教育としても提示しやすい内容なのですが、「関係性の部分」はなかなか言語化が難しいこともあり、教育としても手間暇のかかることです。それは、他者との間で起こってくる様々な「体験」を自ら扱っていくことが求められているので、教科書を読むだけではなかなか学べないものです。しかし、この「関係性の部分」こそが心理臨床の実践においてはとても大切な部分でもあります。

それゆえ、本学会の目的でもある心理臨床学を構築していく上で、これらのことを言語化し見える化していくことが重要であり、取り組むべき課題であると思っております。

特集1

犯罪と心理臨床

犯罪と心理臨床。このふたつの並びから、みなさんはどんなことを連想されるでしょうか。

多彩な心理テストを通じて犯人の心の闇を抉り出す「精神鑑定」。猟奇的殺人犯の捜査に携わる「プロファイリング」。そういったイメージが強いでしょうか。何か特殊なやり方で、通常では到達できない地点にたどり着く……。ひとつはそんなイメージかもしれません。

別の方向性としては、犯罪の被害者への心理的援助も想像されるかもしれません。これももちろん、心理臨床家の重要な仕事のひとつです。

それらは、すでに起こってしまったことに対してのアクションです。近年、犯罪と心理臨床の関わりはそれだけにとどまりません。加害者に対してのカウンセリングや、社会に対して働きかけることによる「予防」にも、心理臨床家は積極的に携わっています。

罪を犯した者は、何かしらの加害者であることは事実です。しかしその「加害」は、通俗的なワイドショーのコメントーターが述べるように、個人の病理へと還元されるようなものではないことが、本特集では描かれています。

犯罪者は私たちとは違う、「あちら側」の人間なのだ……。そう考えると、安心かもしれません。でも、そうした「あちら」と「こちら」を分けるような姿勢こそが、いわゆる「凶悪犯罪」を生み出す素地になっているのかもしれない。本特集はそうしたことを考える一助となることと思います。お楽しみください。

こども・思春期メンタルクリニック 山崎孝明

犯罪と心理臨床

こころの臨床に取り組んでいる援助者は、大きな犯罪事件の第一報が報道されるときに、一瞬ドキッとしてその報道にきぎ付けになります。

「もしやあの人ではないよね?」「よもやあの子ではなからうか?」という不安な思いが瞬間的によぎるのです。たとえ実際に当事者でなかったとしても、私たち心理臨床家にとって犯罪や事件は、切っても切れない切実な課題であり、そして犯罪に関して社会で果たすべき役割と責任があると思っています。

被害者支援

あざみ野心理オフィス

岩倉拓

痛ましい事件の全容を知ること、その事件の被害者や周囲の人々に生じる言葉にできないほどの悲しみや苦痛に思いを馳せ、やりきれない気持ちになります。犯罪の被害にあっってしまった被害者の方を支援することは、私たちにとって欠かすことのできない視点です。多くの被害者やその家族の方々が、突然理不尽な事件に巻き込まれ傷ついています。その上で捜査の過程やマスコミの取材などによって何重にも傷ついたりすることがないように配慮すること、ひとりで事情聴取や裁判にいかないように寄り添うこと。そしてなによりも、事件によって生じるこころの

傷つきや痛みと向き合うという困難に寄り添うこと。その悲しみを共にし、ひとりにさせないという私たちの被害者へのこころの支援の仕事です。

犯罪を未然に防ぐ

そして、同時に加害者にも思いを巡らせます。加害者はなぜこのような犯罪に至ってしまったのか? この犯罪を防ぐことはできなかったのか? と自問自答するのです。

「ぶっ殺してやる」「死ね」「マジじゃない」といった言葉は、私たちの相談活動の中でクライエントとの間でよく耳にしている言葉です。しかし「ぶっころしたいぐらい憎い」とと「実際に殺してしまう」ことは、近く見えますが異なるものなのです。前者は、私たち誰もこのこころの奥底や一部としてたしかに存在する「感情」です。そして、後者は「行動」なのです。

しかし、もちろん、その感情があるから行動をしてしまう、というつながりがあります。ですから心理学

的に言えば、憎いという「感情や衝動」と、殺す「行動」を別なものとして取り扱っていく必要があります。それではどうすればいいのか?

感情や衝動を受け止める

そんなことを思っただけはいけません! と禁止や制止をするのではなく、そう思ってしまう感情について誰かに心ゆくまで聴いてもらう必要があるのです。殺したいぐらいの憎しみの背後には、悲しい思い出や、見捨てられや裏切られ、孤独な思い、理不尽と感じる出来事など、たくさん体験がその人にはあったことでしょう。あなたの体験世界に入っていく「あな」としてはそう思うのも無理がない」ということがわかるまで、聴き続け、関係し続けるのです。

時には、カウンセラーに負の感情そのものが直接ぶつけられることがあります。それこそ進展です。私たちは「あの子がもしかしたら」という危機感を抱えながら、紙一重のところで行動にならないよう支えています。その作業によって、その人

の「殺したい」感情は徐々に受け止められ、関係性というところを通して消化され、荒ぶりが収まって、別の選択肢を選んでいく力もついてくるのです。大切なことは、ひとりだけのところで考え続けても出口がないということ。誰かと対話すること、ちがった展開が生じる可能性が開かれるのです。

「関係を育み、殺したいぐらいの感情について聴き続ける」

地道な作業ですが、それが私たち心理士の唯一の道なのです。

社会に目を向ける

もちろん、それだけで話はずみません。そのような理不尽な出来事が起こってしまう社会の問題も無視することはできません。現場では適切にさまざまな職種と連携や協力を育むことも重要な仕事になります。また、辛い状況の中で何も手当てがないままに誰かが放置されるという、虐待や不適切な環境の問題にも私たちは取り組まなければなりません。テロや災害、ウイルス禍など、生活の基盤そのものが破壊される事態では、負の感情は高まります。理不尽な格差や、自己責任論がはびこって希望がない社会では、絶望が負の感情を後押しします。

また、インターネットやSNSは正のつながりも促進しますが、負の感情の吐き出し口ともなります。ここでは関係性がないまま、匿名で強い負の感情だけが発散され、時に危険な空間となってしまう。

こうして、手当てや見守りのないまま、憎しみや恨みなどの負の感情が蓄積されると、それはいつか行動という形で具象的に発散されてしまうのです。

そんなことが起こらないために、私たちは社会がどうあるべきかについても考え、発信していく責任があります。

心理士の仕事

心理士は、さまざまな現場で、この犯罪の抑止に関係し、貢献できる仕事と言えましょう。乳幼児の母子臨床や、児童相談所などにおける虐待臨床、家庭裁判所の調査官、司法領域での矯正や更生の仕事はもちろんです。また、どんな要因で犯罪が起きてしまうのかを解明していく犯罪心理学もとても重要な学問です。

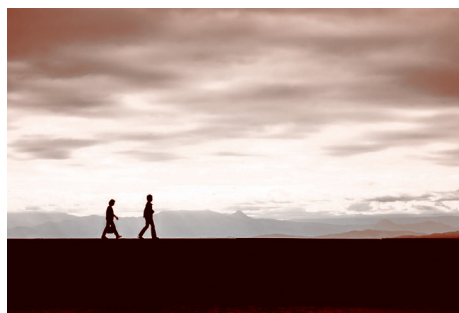
さまざまな現場で心理士が、あるいはそれ以外のさまざまな人々も、放置されたままだったり、サインが出されたりしている負の感情を見逃さずに発見し、それを受け止める関係を作って、つないでいくことが大切だと考えています。スクールカウンセラーも、クリニックや病院のカウンセラーもそれに関わっているのです。

私は、最近起こった痛ましい事件、連続殺傷事件などについて勉強をするようにしています。加害者がどんな人生を送っており、どのような関係性の中で、何を感じ、それがどのようにに事件に結びついているのだろうか？ 加害者の生い立ちや経過を調べていくと、あの局面で、あの時代に、誰かがこの人の話を聞いていたらどうだっただろうか？ 彼らのこの気持ちを解毒してあげられな

ったかと考えます。

そして、一方でもしカウンセラーがいても難しかったかもしれない、あるいは拒絶されただろうな、と絶望的な気持ちになることもあります。それほどカウンセラーは万能ではないことも感じます。社会にも何らかの仕組みが必要なのかもしれない、と考え続けています。

事件が起こった後のこのころのケアだけではなく、事件自体が起こらない世の中にする。完全に達成することは難しいかもしれませんが、私たち心理臨床家の目指しているのは、そんな世界なのです。



おもしろうてやがて悲しき 精神鑑定

一二年間、年に四、五件の頻度で、「精神鑑定」の心理検査に携わっています。緊急事態宣言の間も、刑事裁判は「平常運転」ですから、「精神鑑定」も平時と変わらず行われています。違うのは、濃厚接触が避けられない中、被疑者も私も手をよく洗い、マスクをして、机の消毒をして臨むこと、くらいでしょうか。

鑑定助手のごとく——私の場合

鑑定助手としての私の任務は、次のような感じでした。コンビを組んでいる鑑定医から協力依頼を受けたら、日程を打ち合わせて、被疑者の留置されている拘置所か警察署に心理検査用具一式を持って赴き、五時間くらいかけて七〇種類の心理検査を施行します。被疑者の状態によっては何回かに分けます。「包丁一本晒しに巻いて」の世界ですが、これは、鑑定医も私も今は病院勤務ではないためです。多くの場合、「精神

南青山心理相談室

松森基子

鑑定」は大学病院で被疑者を鑑定入院させて行います。

どんな検査を実施するかは、調書を熟読し、既に何回か被疑者と面接している鑑定医からの情報を基に決めます。病院での実施と違い、一発勝負になることと、ミネソタ多面人格目録は鑑定医、WAIS-III成人知能検査とウェクスラー記憶検査は、医学検査（MRIや血液検査）のために行く病院の言語聴覚士に施行してもらおう関係で、必ずしも合理的でない順に施行せざるを得ないため、結構頭を使います。用いる検査は、医療機関や相談機関で使われているものと同じですが、多面的に見たいので、一回の鑑定で実施する検査の数は多い方だと思います。先に名前を挙げた検査の他にほぼ必ず施行しているのは、時計描画、HTP（家と木と人を描かせる）、ロールシャッハ（精神病性の知覚障害と思考障害が分かる）や、文章完成法（被疑者の言いたいことや自閉スペクトラム症者特有の言語障害が分かる）あたりでしょうか。こうして検査データがそろったら、さらに鑑定医が面

接で得た情報や医学検査の所見も参考に、心理検査報告書を書きます。

そもそも精神鑑定って？

精神鑑定って、刑法第三十九条に、
一．心神喪失者の行為は罰しない
二．心神耗弱者の行為は、その刑を減輕する、とあるので、弁護士が被告人の罪を軽くしようとして行うものでしょう、と思っておられる方もいらっしゃるかもしれません。でも、違うんです。一般に精神鑑定と呼ばれるのは、法律家と裁判員が、心神喪失か心神耗弱ではないかを判断するのに必要な知識を、精神医学の専門家が提供する刑事責任能力鑑定です。ですから、刑法第三十九条は大いに関係あるのですが、鑑定を依頼する権限があるのは検察官か裁判官だけ。弁護士は精神鑑定の実施を要請することはあっても、主導することはありません。

さて、刑事責任能力鑑定には、検察官が被疑者を起訴するかどうかを決めるために行う起訴前鑑定と、裁判が始まってから起訴前鑑定の結果

が不十分だと感じられた場合や、鑑定せずに起訴された場合に裁判所の判断で実施される「公判鑑定」があります。そして、起訴前鑑定はさらに、勾留期間中に半日〜一日で行われる「簡易鑑定」と、二カ月程度の鑑定留置期間を設けて行われる「本鑑定」に分かれます。「本鑑定」と「公判鑑定」は中身はほぼ同じで、複数回の面接、医学検査、心理検査、家族面接を実施して、鑑定医が鑑定書を作成します。このうち心理検査は、臨床心理士／公認心理師が鑑定助手として実施することが多く、実際、私が携わっているのも「本鑑定」と「公判鑑定」の心理検査です。

精神鑑定をめぐる人間模様

精神鑑定の対象となるのは、裁判で責任能力の有無が争点になりそうな被疑者です。具体的には、犯行動機が分からない人、捜査中に奇異な言動があった人、精神科通院歴のある人などです。必ずしも重大事件の被疑者とは限りません。私が関わった事例も七割が新聞に載らないよう

な事件の被疑者でした。統合失調症者が多いのでは、と思われるかもしれませんが、私の経験では「本鑑定」の事例で二人だけです。推測ですが、誰がどう見ても精神病状態という被疑者は、軽微な事件の場合は、警察官通報等で措置または医療保護入院になることが多いためだと思います。なお、「簡易鑑定」で心神喪失とされ、不起訴になった事例は医療観察法の対象となります。

実際に会おうことの多かったのは、事件としては「通り魔」「通り魔に類する面識のない人を襲撃した人」「自宅に放火した人」などです。少数の殺人事例は全例家族内殺人、「通り魔とそれに類する人」はほとんどが虐待サバイバーで、家庭が崩壊したため若くして自立を迫られた人たちでした。このことから分かるように、精神鑑定で会おう被疑者の多くは機能不全家庭の出身で、犯行時には外傷的育ちに起因する解離性障害、アルコール／薬物依存、パーソナリティー障害の状態にあるというのが典型でした。一方、長年のアルコール乱用でアルコール認知症に

なっている人を含む認知症、未治療の発達障害、脳の形態学的異常等、脳器質的な問題のある人も多く、育ちの問題と脳の問題が重なって複雑な臨床像を呈しているというのも常でした。なお、詐病（精神病だと偽る）の可能性はいつも念頭に入っていますが、これまでのところ、詐病を疑う被疑者には会ったことがありません。

精神鑑定の未来

——責任能力論を超えて

分かりやすく伝えられるようにということも意識して書きます。ですが、それでも、裁判関係者の求める分かりやすいストーリーと、精神鑑定があまり出す個々の被告人の錯綜したストーリーとの間のギャップは大きく、その間をどう橋渡しするのかは残された課題の一つです。

もう一つの課題は、精神鑑定で得られた知見は、今のところ被疑者の更生には活かされていないということです。フランスでは重罪裁判所で審理する事例は全例、精神鑑定とは別に心理学者も心理鑑定を行い、裁判で証言すると聞きます。日本でも最近では心理学者による情状鑑定が行われる例も出てきましたし、一部の受刑者や仮釈放者、刑の執行猶予者に、心理支援を提供することで再犯を防ぐ試みも定着してきました。精神鑑定も、こうした動きと連動して、責任能力の有無にかかわらず、被疑者が自分の抱える精神障害や心理的困難を理解し、回復に必要な支援にアクセスするきっかけとなっていくとよいと思っています。

プロファイリング

プロファイリングとは？

皆さんはプロファイリングという言葉をご存じでしょうか？ この言葉はマスコミにより紹介された経緯があります。まず、一九九一年に公開され、ジョディ・フォスターが連続猟奇殺人事件に取り組みFBI訓練生を演じた『羊たちの沈黙』という映画は、アカデミー賞五部門を受賞しました。その後、『FBI心理

分析官』（一九九四、早川書房）などの本が次々に出版され、わが国でも、プロファイリングをテーマにしたテレビドラマも制作されて、一時期、非常にポピュラーな言葉になりました。

プロファイリングという言葉の意味については、日本の科学警察研究所では「犯罪現場から得られた資料及び被害者に関する情報等から、犯人の性別、年齢層、生活スタイル、心理学的特徴、犯罪前歴の有無、居

四国大学
高村 茂

住地域等、犯罪捜査に役に立つ情報を推定すること」と定義されています（渡邊・池上・小林、二〇〇六）。

昔から犯罪捜査は、捜査員（刑事）が犯罪現場を臨場する、事件関係者から聞き込みを行うなど、様々な捜査の結果から得られた情報から捜査幹部が捜査方針を決定していきます。プロファイリングは、平たく表現すると、その過程に心理学的な分析結果を活用する捜査手法であり、心理学の応用分野を犯罪捜査にまで拡充していくという意味でも、筆者（その当時、徳島県警察の科学捜査研究所の心理係）は非常に意義深いと思っています。

プロファイリングの手法について

プロファイリングの手法に関して、日本でプロファイリングを中心的に導入した科学警察研究所の田村（二〇〇〇）は、当時、臨床的プロファイリング、統計的プロファイリングの二つの手法をあげています。その後、犯罪者の地理的な行動に焦点をあてる地理的プロファイリングの手

法が加えられていきます。

臨床的プロファイリングとは、精神医学者や臨床心理学者が、犯人の言動や行動を材料に、その臨床的知識をもとに犯行動機を重視して犯人像を推定する手法とされています。先に紹介したFBIの手法が一般にその傾向が強いとされています。

一方、統計的プロファイリングは、過去に発生した同種事件の様々な情報を基本として、その統計的分析から犯行動パターンを抽出し、当該の犯行動と類似パターンを持つ犯罪群の特徴から犯人像を推定する手法とされています。その当時、英国のリバプール大学で捜査心理学センターを開設した環境心理学者デイビット・カンター教授らの研究グループによって開発された手法が、その代表といえます。

最後の地理的プロファイリングは、連続事件の発生場所をもとに犯人の居住地（職場・学校）など連続犯行の拠点を推定する、さらには次なる事件の発生場所を予測する手法です。事件の発生状況によっては、具体的に重点警戒すべき地域をかなり絞り

込むことも可能な場合もあり、特に捜査的な有効性が高い手法であるといえるでしょう。

日本のプロファイリング

わが国の警察がプロファイリングを研究するきっかけとなった事件は一九八八年から翌年かけて発生した首都圏における連続少女誘拐殺人事件です。この種の事件の発生は日本では非常に稀であったので、今後の対策として一九九四年頃から先に紹介した田村先生が中心となり研究への取り組みが行われました。

まず、翌一九九五年に田村先生らの科学警察研究所の心理職と、全国科学捜査研究所の心理研究員の有志による十数名のプロファイリング研究会が結成されました。当時はプロファイリングといえば、やはりFBIという風潮があり、この研究会ではFBIの文献などを用いて、地道な勉強会が開催されてきました。その後、リバプール大学のカウンター教授を招聘して研究会を開いたことがきっかけで相互交流がはじまり、今

までに非常にたくさんの研究が行われています。

ところで、最近のわが国の治安は良好であるということ、耳にされる方も多いかもしれませんが、プロファイリング研究会が活動を開始した一九九五年頃から徐々に治安が悪化、つまり犯罪の認知件数が増加していました。中でも一九九七年に発生した神戸連続児童殺傷事件は、また社会を震撼させました。そのような時代的な背景もあり、プロファイリングには大きな期待が注がれるようになってきました。

日本の警察組織は警察庁を中心としたトップダウン形式の構成をしており、都道府県警察の規模に関係なく、同じような組織構成で横並び状態で構成されています。犯罪に関して収集された情報は、捜査のために全国的に統一された様式で記載されています。そのため、わが国のプロファイリングは、警察における犯罪に関する資料を活用した統計的プロファイリングを基礎において、臨床的プロファイリングを併用する形で分析を行っています。また、ある程

度の犯行件数がある連続事件には、地理的プロファイリングを併用して取り組み、捜査員を効率的に配置しています。たまたま発生する快樂的殺人や加虐性の高い性犯罪にも同様の手法を応用する形で対応しています。

プロファイリングの分析者は、都道府県警察による違いはあるのですが、主に科学捜査研究所に所属する心理職、あるいは警察本部の刑事部門に属する捜査員や情報分析担当者が対応しています。実際の捜査にプロファイリングが導入された当時、北海道警察は、わが国で初めて心理職と捜査員が組んで分析を行う専門チームをつくり、心理学的知見と現場警察官の捜査経験を融合させて、非常に多くの犯罪捜査に貢献をしています。

おわりに

司法・犯罪領域における警察を中心とした心理学の応用分野には、ポグラフィック検査、犯罪被害者支援、少年サポート業務、虚偽自白などを防止する科学的取調べ手法（捜査面

接）などがあげられます。これらの分野において特に心理臨床と関係が深いのは、まず、犯罪被害者支援、さらに少年サポート業務であり、実際に臨床心理士・公認心理師もこれらの業務を担当しています。

私自身、プロファイリングを含め警察の心理職を希望する学生から相談を受けることは多いのですが、心理臨床の他領域に比べると求人数が圧倒的に少ないため、学生の希望を簡単にはかなえてあげられないことに、もどかしさを感じるのが現状です。

●文献

- Ressler, R. K., & Shachtman, T. (1992). *Whoever fights monsters*. New York: St. Martin's Press. 相原真理子（訳）（一九九四）『FBI心理分析官』早川書房
- 田村雅幸（二〇〇〇）『解説（あとがきにかえて）』Jackson, J. L., & Bekirian, D. A. (Eds.) (1997). *Offender profiling: Theory, research and practice*. New York: John Wiley & Sons.
- 田村雅幸（監訳）、辻典明・岩見広一（訳）『犯罪者プロファイリング』（二二二―二三四頁）北大路書房
- 渡邊和美・池上聖次郎・小林敦（二〇〇六）『犯罪者プロファイリング総説』渡邊和美・高村茂・桐生正幸（編）『犯罪者プロファイリング入門』（二―一六頁）北大路書房

受刑者のカウンセリング

元札幌刑務所処遇カウンセラー／
徳島大学キャンパスライフ健康支援センター

後藤龍太

はじめに

私は刑務所という現場の中で、処遇カウンセラーと言われる立場から受刑者へのカウンセリングに携わっています。刑務所とは、矯正施設という国の機関における刑事施設の一つで、他には少年刑務所や拘留所も刑事施設となります。このような刑務所において、犯罪を起こして収容されている受刑者に対して、カウンセ

リングを行うことが私の仕事です。

処遇カウンセラーとは

二〇〇七年六月に「刑事収容施設及び被収容者等の処遇に関する法律」が施行され、一九〇八年から刑事施設で運用されてきた「監獄法」が全面改正されました。法律が変わることで、受刑者の社会復帰に向けた処遇の充実が言われるようになり、矯正処遇は従来の作業に加えて、改

善指導や教科指導が導入されるようになりました。

この法律改正の中で、受刑者の処遇について民間の専門家が活用されることになり、心理の専門資格を持つ民間のカウンセラーも処遇カウンセラーとして携わることになりました。処遇カウンセラーとは、矯正施設で働く非常勤職員であり、その仕事は私のように受刑者へのカウンセリングを行うものもあれば、薬物依存や性犯罪などの事情を持つ受刑者に対する改善指導を行うグループワークもあります。ここからは、個人が処遇カウンセラーの経験から考える、受刑者へのカウンセリングの特徴を述べていきたいと思います。

非常勤であり、民間の専門家という立場を忘れない

まず前提として、処遇カウンセラーは非常勤という立場上、常勤職員による支えがあつて仕事をしていきます。例えば、刑務所の特殊な構造から出勤・退勤を含め、私が刑務所内を移動する際には常勤職員が帯同し、扉の錠錠・施錠を行います。また私

がカウンセリングを行う際には、受刑者を常勤職員が部屋まで連行してきます。私たちが仕事を当たり前に行うことができるのは、常勤職員がいるからであることを忘れてはなりません。

またカウンセリングを行う際に他の専門職と連携することは、どの現場においても共通ですが、刑務所の場合は法務技官（心理）や法務教官、福祉専門官などの常勤の専門職とのあいだで、情報収集や情報交換を行いながら進めていきます。そのためには、まずその専門職がどんな役割を担っているのか知っておかなければ、協働・連携は難しいでしょう。

本人が動機を持つて来談して始まるカウンセリングではない

一般的にカウンセリングとは、悩みや解決したい課題を持つクライアントが、自分の意志や動機を持つてカウンセラーのところに来談するところから始まります。しかし、私が刑務所の中でカウンセリングを行う受刑者は、そうではありません。

本来、受刑者は他の受刑者と一緒

に工場で作業をし、集団生活を行います。しかし、私がカウンセリングで出会う受刑者は、刑務所内での集団の作業や生活が難しく、不適応を起している人たちです。彼らは個室において独りで作業をし、刑務所内の活動も制限される中、他者との関わりをほとんど持たずに生活しています。そこで、刑務所内での適応や再犯防止はもちろんですが、対話を通して自分の内面の見つめ直し、自身や被害者に対する新たな気づき、社会復帰へのイメージづくりなど、複合的な視点からカウンセリングが有効と考えられる受刑者を刑務所が選定し、カウンセリングが導入されることとなります。

私は一人の受刑者に対して「週一回五〇分の面接を一〇回まで」というルールでお会いしています。なぜなら私が勤務する時間の中でカウンセリングできる人数が限られているためです。その初回の面接で、刑務所の中で選ばれて連れてこられた受刑者は、初対面の私から「話し合いたいことは何か？」と尋ねられるところから始まります。

受刑者の反応は、自ら悩みを語り始める者もいれば、職員に勧められたからと述べるだけの者などさまざまです。その後も毎回のようになり悩みが変わる者もいますし、話しているうちに自分の胸の内を話さなければよかったと言いだめる者もいます。そんな受刑者の反応から思うのは、むしろ彼らのその態度の中に本当の主訴があるということであり、対話を通して受刑者は自身の真の主訴と一緒に話し合うテーマを見つけていくということなのだと思います。

加害者であること、被害者であること

受刑者は何らかの犯罪を起こして刑務所に収容されるため、多くの場合は加害者という立場になります。カウンセリングが始まり、彼らが犯した事件について聴き、そこに至った経緯を聴き、また彼らの生い立ちや社会での生活にまで話が及ぶと、次第に彼らが人生の中で大変な思いをしてきた被害者かのように思うことがあります。実際に、受刑者の中には恵まれない養育環境の中で育つ

てきた者、人間関係などで傷つけてきた者がいるのも事実です。一方で、彼らが自分の起こした犯罪について、自身の生い立ちや誰かのせいにしてから自分の罪を棚に上げて話すことにも、否定的な気持ちで一杯になることもあります。

受刑者に関わる中で私たちが、彼らの中にある被害者性に特別な気持ちを持つたり、逆に加害者性に特別な気持ちを持つのは「加害者の被害者性」に巻き込まれているからといえます。確かに彼らは加害者であるし、場合によっては何らかの傷つきを抱えた被害者であるかもしれませぬ。ただ、カウンセリングで取り組みたいのは、彼らがどんな気持ちで犯罪を起こし、その犯罪に対して今どんな気持ちでいて、そのような気持ちになるのはどういうことなのか、受刑者の心について一緒に探求していくことだと考えています。

カウンセリングを一〇回行っていくと、彼らから「こんなに話を聴いてもらうことは今までなかった」「こんなに自分のことを考えることはなかった」といった言葉を聞くこ

とがよくあります。彼らの言葉から「加害者か・被害者か」や「良いか・悪いか」という姿勢とは異なる、彼ら自身や彼らの心に関心を持って関わる態度の大切さを学びます。

おわりに

読者にとっては初めて知るような内容もあったかも知れず、刑務所など矯正施設の心理臨床実践は未だ身近なものとはいえないかもしれませぬ。正直、私も処遇カウンセラーになって知ったことがたくさんありました。しかし、「刑事収容施設及び被収容者等の処遇に関する法律」が施行され、受刑者の社会復帰が目指される中で、次に必要となってくるのは社会の受け皿です。司法や矯正とは異なる現場で活躍する心理臨床家の皆さんやこれから心理臨床家を目指す皆さんに、司法や矯正の現場について関心を持ってもらい、社会の受け皿の一部を担ってもらえるよう、私自身の経験が微力ながら役立てば幸いです。

「趣味」と「リフレッシュ」

私の趣味は映画鑑賞です。映画は、二時間前後という驚くべきコンパクトさで、私を別世界に連れて行ってくれます。映画の魅力は言い尽くせませんが、セリフ・音楽・演技・衣装・カメラワークなど、様々な工夫がはりめぐらされ、演出技術の総結集を味わえるところが特に気に入っています。膨大なスタッフの名前がぞろぞろと流れていくエンドロールをうっとり眺めながら、ストーリーや名シーンを振り返り、感動をそのままにレビュー記事をアップする。私の至福の時間です。

とここで、このコーナーのタイトルは「このころのリフレッシュ」と言います。「リフレッシュ」という言葉には、疲れた身体でザバーッとシャワーを浴びたときのような、あるいは暑い路地から冷房のきいた建物に入ったときのような、今までいたところから方向性がパッと変わるイメージがあります。

となると、ここでは心理臨床にあって学びが多く、人の心について考えさせられるような映画を挙げるのはちよつと違う気がします（そういう映画に興味がある方は、本誌前号の特集「心理臨床のフィクションとリアル」をお読みください）。です

マオメティカルクリニック 柴田彩花

ので、私の思う映画の「リフレッシュ部門」、ゾンビ映画について紹介しようと思います。

ナイト・オブ・ザ・リビングデッド ドから見るゾンビの特徴

ゾンビ映画といえば、おどろおどろしいゾンビたち、人々の阿鼻叫喚……。「リフレッシュ」という爽やかな語感とは、一見するとミスマッチです。なぜ、ゾンビ映画でリフレッシュができるのでしょうか。ゾンビ映画の元祖にして定番、ジョージ・A・ロメロ監督の『ナイト・オブ・ザ・リビングデッド』を観ながら説明していきましょう。



『ナイト・オブ・ザ・リビングデッド』

ゾンビ映画の中では基本的に、ゾンビはすでに「いる」ものなのです。緻密なSF設定もあつとおどろく伏線回収も必要ありません。ご当地ゾンビアイドルアニメ『ゾンビランドサガ』のセリフを借りれば、「なんやかんやで墓からドーン！」で彼らは出現します。「化学物質だ、ウイルスだ、突然変異だ……」。劇中のラジオではそんな憶測も飛び交いますが、ゾンビを目の前にしたらもはや「なぜ？」は無益です。倒す・逃げる・生き延びる。人間に出来ることはただそれだけになります。

場面が進み、一軒家に逃げ込み仲間と籠城するバーバラたちのもとに、ぞくぞくとゾンビが集まってきました。彼らをよく見てみましょう。人を見つけて喜ぶ様子も、怪我をして痛がる様子も見せません。唯一の弱点である頭部を壊すまで、淡々と人間に襲いかかってきます。ポイントその②は、このようなゾンビの極端な単純構造です。彼らには物音や光に刺激されて襲いかかる「機能」だけがあり、「心」がまったく無いようです。それゆえに、見慣れてくれ

ば、ゾンビへの恐怖心はなくなりま
す。もちろん、危険なものとして危
機意識は抱きますが、何を考えてい
るか分からない不気味さはありません。
ホラー映画との大きな違いがこ
こにあります。またその無反応さに
よって、生きるものを傷つけてしま
ったことに伴うこちらの痛みも生じ
にくくなります。そうして、ゾンビ
映画を「痛快」「アクション」として楽
しめるのです。

ストーリーも佳境に入ってきましたし
た。パニックに陥った人間たちは、
事故や仲間割れを起こして一人また
一人と命を落としてしまいます。ゾ
ンビに囲まれた状況では、無茶をし
たり自分勝手に振る舞ったり、泣き
叫ぶばかりで何もしなかったりとい
った人間の弱さが命取りです。「も
う、今はそんなこと言ってる場合じ
やないでしょう！」「火を使うなら
もつと……！」と、画面のこちらか
ら声をあげたくなります。それでも
主人公たちが生きた人間だからこそ、
そんな不器用さも見られるのでしょ
う。ポイントその③、ゾンビのいる
世界では、利己的な行動も非力さも、

あらゆる「人間らしさ」を愛おしく
見ることができるとは、

そろそろクライマックス。ついに
バリエードの内側からもゾンビが現
れてしまいました。「感染」という
やっかいな性質によって、安全地帯
があつという間に戦場に早変わりす
るところもゾンビ映画の見どころの
ひとつです。さらになんと、この新
しいゾンビは突然道具を使つて的確
に攻撃してきました。今までのゾン
ビはもつと鈍くて、ぶかっこうだつ
たのに……。もうわけがわかりませ
ん。「だつてそのほうが雰囲気出る
でしょう」。ロメロ監督の声が聞こ
えてきそうです。

悪魔・怪物といったホラーコンテ
ンツが「悪」や「恨み」のイメージ
を担っているのに対して、ゾンビが
体現するのは「無」です。「Living-
Dead (生きる死体)」の名が表すと
おり、生から死への時の流れは止ま
り、生体はねじれを伴います。永遠
に肉を求め続けても飢餓で死ぬこと
はなく、あんなにたくさん食べても
「ゾンビの糞」あるいは「排泄シー
ン」なるものは存在しません(私の

見る限りでは)。そんな不自然なゾ
ンビと対峙すればこそ、生き延びる
人間の自然な、ありのままの生がみ
ずみずしく映るのです。画面をオフ
にし、大きく深呼吸をしましょう。
ああ、この世に生きているってすば
らしい。これぞ、リフレッシュでは
ありませんか。

ゾンビ映画バリエーションズ

ゾンビ映画はいまやひとつのジャ
ンルとして人気を博し、多くのゾン
ビ映画が続きました。ゾンビ自体は、
ロメロ監督が「人を襲い、頭以外は
不死身で、感染により増殖する」と
いう基本原則を打ち出した以外に定
義を持たないので、描きたいストー
リーに合わせ

て設定のアレ
ンジが可能で
す。たとえば
ダニー・ポイ
ル監督『28日
後……』では、
潜伏期間のな
いゾンビウイ
ルスにより人

がその場でゾンビ化するためパニッ
ク感が強く、邦画ゾンビで最も有名
な『アイムアヒーロー』では「生
前の習慣を反復する」という設定を
付与したことで絶妙なウェット感が
演出されています。最近では、こう
いった映画ごとの独自設定も楽し
みのひとつです。

さて、普段頭を空っぽにして見て
いるゾンビ映画について一生懸命文
章をまとめたおかげで、すっかり疲
れ切つてしまいました。書き終えた
ら、最近お気に入りのドラマシリー
ズ『ウォーキング・デッド』の続き
でも見ることにします。



「アイムアヒーロー」
©2016映画「アイムアヒーロー」製作委員会
©2009 花沢健吾/小学館
発売元: 東宝 販売元: エイベックス・ピクチャーズ

心理臨床の先達の卒業論文はいったいどんなテーマで書かれているのか？ としてそのテーマは先達のそれからの臨床活動とどうつながっているのか？ 今回の先達は医療現場における心理臨床家の草分けである佐藤忠司先生です。本来ならば、先生に直接インタビューをさせていただいたうえで執筆するコーナーですが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、先生に卒業論文に関する資料を送っていただいたうえで、メールでのやり取りをさせていただき、執筆致しました（以下敬称略）。

●二つの卒業論文

佐藤には、卒業論文が二つあるという。一つは佐藤が新潟大学在学時に書いた視知覚実験に関する論文である。これは後に横瀬善正が提唱した「視覚の誘導場」という概念に関連している。視覚の誘導場とは、図形のまわりに静電場のようなものとして仮定される場であり、等高線のように描かれるその誘導場の形態によって人間の図形認知は影響を受けるとされる。佐藤の卒業論文では、水平方向に一列に並んだ小点の上に別の大きな点を打つ、すると実際には一直線上に並べられた小点が隣接する大きな点の存在に干

渉され、水平に並んでいないように知覚されるのではないか、というリサーチクエスチョンに基づいて実験がされた。この時の「図形の認識は、その形状のみで決まるわけではなく、関連する別の図形の影響を受けるのではないか」という問いは、佐藤が病院で臨床を始め、大量のロールシャッハテストのデータに囲まれるようになってからも維持されることになる。

ロールシャッハテストは一〇枚の相互に関係のない図版が使用される。しかし例えば、一つ目の図版に何か付け加わる形で二つ目の図版がデザインされていたとしたら、それはどのような反応を生むのだろうか。このように佐藤の視知覚研究への興味は、ロールシャッハテストを通して臨床心理学的な問いへと繋がっていった。以上は佐藤の卒業論文の「正史」といえよう。

●苔を見つめて

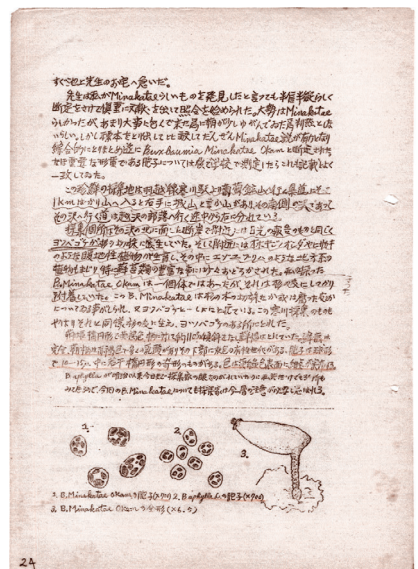
もう一つの卒業論文は「正史」論文が出来上がる数年前、新潟市立高校時代に書かれている。テーマはなんと苔コケについてだ。絶滅危惧種「クマノチョウジゴケ」の発見についての克明なレポートである。「珍薜クマノチョウジゴケ発見」

と題されたこの論文は佐藤がクマノチョウジゴケを見つけることになったいきさつ、発見した場所、その形態についての記述とスケッチで構成されており、ガリ版刷りのものながら専門家からは高く評価されているという。この卒業論文を書くことになったのは、薜コケ類の研究者でもあった高校

の生物教師の影響が大きかった。高校では珍しく卒業論文提出を求められたため佐藤はそのテーマに苔を選び、収集そして観察の日々を送った。佐藤にとってこの苔体験は、自分自身の獨創性を評価してもらえたということが大きかったという。

その後、佐藤の獨創性は、ロールシャッハテストと他の心理テストを組み合わせた、その結果を客観的な数値として患者の状態理解へと使用するアトラス法として結実することになる。臨床家の臨床的直観のみに頼らずクライエントを診るためのツールの必要性を感じてのことだった。

「苔の観察には顕微鏡が使えないといけませんから」と語られるように、佐藤



は高校生時代から植物観察の眼力には絶対の自信があったという。佐藤の興味は高校時代から一貫して観察することに向けられていたようだった。小さな苔の形態の微細な特徴を捉えるために培われた佐藤少年の「観察眼」が、のちに臨床心理学にもたらした貢献は大きい。

佐藤忠司（さとう ちゅうじ）

一九三三年新潟生まれ。一九五五年新潟大学人文学部心理学専攻卒業。新潟県立療養所悠久荘を経て、一九九一年新潟心理相談システム開設。著書に『臨床心理学査定アトラス——ロールシャッハ・ベンダー・ゲシュタルト・火焰描画・パツテリー』『臨床心理学査定アトラス法への招待』（ともに培風館）など。

心理臨床の 地域性

心理臨床は、日常の環境ととても密接につながっています。クライアントが、**今**、どこに住んでいるのか、**昔**、どこに住んでいたのか、どこで生まれたのか、親はどこ出身だったのか、というようなことが実はその人の考え方、物の見方など、いろいろなことに影響しています。それは、カウンセラーにも当てはまります。身近なことで言えば、**言葉**です。カウンセリングの多くは言語を介して行われますから、言葉の違いはととても大きく影響します。同じ日本語を話しているけれど、**〇〇弁**と呼ばれる違いがあるのです。私が初めて四国に来た時も、年配の方とのカウンセリングでは、それが疑問文なのか、否定文なのかすらわからないということがあったり、同じ言葉だけど意味が異なるものがあり、クライアントの気持ちがあつかえなかったりすることがありました。

また、言葉以外では、自分が当然だと思っている**習慣**などが、実は自分が住んでいる地方特有のもので、他の地方に行けば、まったく常識ではないことがあります。あるいは、心の様々な問題についてもその地方特有のとらえ方や治し方があったりします。このような違いについては、その地方から外に出て初めて気が付くものです。つまりそれまではまったく意識していなかった違いが浮き彫りになり、改めて、その地方特有のものだったことを知るわけです。

今回の特集では、北海道、東北、東海、四国、沖縄で臨床活動をしている方々から心理臨床の地域性について紹介してもらいました。その中から改めて皆さんのお住まいの地域のことも振り返っていただけたらと思います。

心理臨床の地域性【北海道】

札幌市の臨床心理士が非常に集中していることそのものが北海道の「地域性」とも言えるでしょう。北海道は日本の国土の五分の一を占める広さがあるので、行政区画を一四に分けています。

はじめに

「北海道はでっかいぞう」というフレーズはよく耳にすることがあるかもしれませんが、北海道の人口は五二八万人、そのうちの二〇〇万人近くは札幌市に人口が集中しています。北海道には北海道臨床心理士会に登録している臨床心理士の数だけで八〇〇人弱いますが、その多くは札幌市や札幌市近郊で活動しています。

たいと思います。

とにかく広い

北海道の心理臨床の特徴としては、やはり「地理的な広さ」の問題があります。私も北海道内の様々な地域で臨床をすることがありますが、往復五〇〇キロから六〇〇キロくらい移動をすることがあります。特に雪が降って路面がツルツルになる冬場は命懸けで移動することもあります。距離で言うと東京―名古屋間を往復するようなイメージでしょうか。これまでの距離を移動しながら臨床活動をしている人も決して多くはいないかもしれませんが、先ほども述べたように札幌市以外の地域ではなかなか臨床心理士や心理の専門家の確保が難しい現状があり、札幌や近郊の都市から心理士が泊りがけで移動して業務を行うこともあります。

北海道は幸い車で移動する場合でも頻繁に渋滞に巻き込まれる訳ではないのですが、移動時は鹿や熊、キツネやうさぎなどの野生動物に遭遇することがあります。野生動物を見

ながらドライブをするのは、それはそれでなかなか良いのですが、サブアリパークや動物園と違って管理されている訳ではないので、季節によっては動物の群れの中を移動せざるを得ないこともあり、時々車と衝突してしまいうこともあり。実際に私も鹿の群れに遭遇し、山中で車が半損したり、車のタイヤが雪に埋まって動けなくなってしまうことがあります。困っていたところをちやうど通りがかった方に声をかけてもらい、除雪車で助けてもらったことがあります。そういう意味では、北海道で臨床をするには心理臨床家としての資質や技術もそうですが、運転技術とトラブルがあっても生きていけるサバイバル技術やスピリット、厳しい自然を前にして、誰かに頼る力がかししたら必要かもしれません。少し大げさかもしれませんが。

「なご」か「ない」の魅力

こうした北海道の距離的な問題は冒頭で触れた人材偏重の問題と関連

しています。北海道だけではないかもしれませんが、僻地に行けば行くほど人材を確保するのは非常に困難になり、学校臨床の分野で言えばスクールカウンセラーの確保も難しく、臨床心理士ではなく退職された学校の先生や心理系の資格をもった方々が何とか僻地の心理臨床活動を維持し、支えているという現状があります。そのため札幌市や近郊の都市から心理士がその地域に行つて、そこで地域の専門機関や専門家・他職種と連携をしながら、ケースを進めていく、または実践をしていくということが求められることが多々あります。

二〇一八年に起きた北海道胆振東部沖地震の時も、様々な地域から心理の専門家が被災地に応援に行きました。先ほどサバイバル技術やスピリットが大切と書きましたが、北海道で活動する心理士には他職種と連携する力、ケースを見立てる力、コンサルテーションやコラボレーションの力が多く求められるように感じます。心理の専門家がいないからこそ、そこで奮闘している地域の人が

ちとつながり一緒に支えていく、それが北海道の心理臨床の醍醐味ではないでしょうか。

私に関わっている地域も過疎化が急速に進んでいる小さな町ですが、その町の学校の教頭先生がこんなことを話してくれました。「ないことを嘆くのではなく、ないからこそできることがある」と。このように北海道における心理臨床の魅力は、なんととっても「地域臨床実践」ではないかと思えます。地域のいろんな人たちと関わり合いながら地域やコミュニティを支えていく、そういう実践を北海道では多く味わうことができるのではないかと思えます。

最後に

北海道内の僻地に行けば行くほど、そこで居住する人たちから「生きることの厳しさ」を教えられることがあります。内省することよりも、厳しい自然の中で生きていかなきゃいけない現実にはまず対処することの大切さを教えられます。そういう厳しさの背景には「人間は一人では生

きていけない」という、開拓の精神助け合つて支え合つて生きていくという精神が横たわっているように思えます。

札幌圏内とそれ以外の地域では、心理臨床家を育成するシステムや環境についても非常に格差があります。総じて考えても北海道で心理臨床を続けていくことはなかなか易しいことではないと私自身は感じています。それはスーパーバイズの問題、専門家同士が集まることの難しさ等があります。SNSのおかげで、そういう問題を感じにくくはなっていますが、未だ残っている課題だと思つています。車で数時間かけて集まる、三〇〇キロを運転して研修を受けて帰るといったことが北海道では少なからずあります。それがICTの普及によつて改善されるものなのかはこれからまだまだ不透明な部分があります。北海道を開拓してきた先人が「助け合う力」によつて乗り越えてきたように、乗り越えられない問題ではないと私は思っています。

心理臨床と東北

この春で東京から東北に居を移して一〇年になりました。私が生活しているのは仙台という都市で、しかも生活圏は自宅周辺半径三キロ程度です。宮城、その私が東北について書くなど笑止千万ですが、宮城県臨床心理士会の活動を通じた東日本大震災の被災地支援で感じたことなど、及ばずながら少しでも言葉にしたいと思っています。果たして何ができるのかと思案しつつスタートした被災地支援は、現在まで八年以上にわ

東北福祉大学 清水めぐみ

たつて継続されています。

ひとことで「東北」と 言っけれど

東北とは何かをひとことで言うには、東北はあまりに広く多様です。おしなべて東北の風物は素晴らしく、竿灯、ねぶた、七夕といった夏のお祭りは圧巻ですし（本来は厄払いのための祭りだったわけですが、まさに厄を払いたい今年に開催されないというのは皮肉なことです）、豪雪

かつ寒冷ゆえの風景や風物も美しく、憧れを掻き立てます。一方で『おしん』とか出稼ぎとか貧困とか米どころとか、首都圏への人的・物的資源の供給地であることも連想されます。そして、東日本大震災の、自然災害であるだけではなく人災としての被災地でもあることも棚上げにはしておけない一面で、苦しんできた地域にさらに苦しいことが起きたのが東日本大震災であるようにも見えます。しかし、そのような見方とは異なる「東北」を感じたのは、震災後の南三陸町での支援においてでした。

南三陸町での体験

南三陸町のことは、ご存じでしょうか。宮城と岩手の県境にほどちかく、三方を山に囲まれた、海沿いの集落がいくつか集まって形成された町です。震災から九カ月ほどして訪ねたとき、海沿いの高架の残骸が頭上はるか高くに残っているのを目にして、この高さを、この鉄とコンクリートの建造物を歪めるほどの圧倒的な威力で津波が押し寄せてきたこ

とを思い、映像での恐怖を凌ぐ息苦しさを覚えました。別の場所では、海の近くの何もなくなった平地に、当地の「きりこ」を模したパネルが並べられ、それは復興を願うだけでなく、この地で亡くなった人たちを弔ってみたいようで、そこに茫然と立ち尽くすしかありませんでした。海を間近にした場所に、人が戻るなど考えられないさまでした。

南三陸町に細々と支援でおじゃまする中で、何年も経ってから、海岸のそばで再開された食堂に昼食をとりに行きました。海はすぐそこです。ここでもし津波が来たら……と考えるとにはいられません。けれど、次の瞬間に食堂の海側の大きな窓から燦燦と降り注ぐ日差しと、その向こうの広々とした煌めく海が一面に視界に飛び込んできた途端に、ああ、そういう危険があるかもしれないけれど、この海にしくものはないという思いに凌駕されたのでした。

日々何を目指しているのかは明確でなくても、よりよくなることを志向し、危険を避けて生きることが、いわば当然のことでしょう。しかし、



そればかりにとらわれると見失ってしまうものがあります。確かに海沿いは危ないにちがいないのだけれど、より安全に、よりよくというだけでは測れない美しさや豊かさがあることを、私はこの瞬間まで忘れていたようでした。より安全な場所に自分を置くべきだし、努力や方策でなんとかすることも大切です。けれど、当地で主に高齢の方々のお話を聴く中で、人の作為ではどうにもならないことや、自然に対峙しつつそれを享受する在り方とそれに伴う痛み

を私は徐々に知っていくことになったように思います。

東北の豊かさ

赤坂憲雄（二〇〇九）は、ブナの森に囲まれた土地の豊かさを挙げて、それを基盤に成り立つ生活を後進性とみなすことの誤りを述べています。ブナの森と滋味あふれる海に囲まれ、そこから生きるための糧を享受することを専らとしていたら、ことさらに生産し蓄えるべく、自然を制御する必要はないでしょう。その点で、東北は苦しんできた地域とみなされるべきではありません。しかし、ひとたび、より多くを生産し制御するという視点を持つと、自然のもたらす偶発的にも見える産物に依ることの不確かさにも気づくことになりません。

現代では、自然を享受して生きることのみに留まるわけにいかず、社会保険料や税金を払って、貨幣を媒介とした世の中の仕組みに参入せざるをえません。そして、よりよくあることはそもそも量で測れないにも

かわらず、貨幣というわかりやすい基準で測れるような錯覚をして、その錯覚の分、自然を享受して生きることの価値が見えづらくなっているようです。もちろん南三陸町でも東北全体でも、たくさんの生産と流通があります。その中で、自然を享受する在り方はおそらく、当り前過ぎて普段は見過ぎてしまいうくらいの基盤になっているでしょう。それは、貨幣≡量という視点からだけではつかみきれない、東北の豊かさであり、また実は人がだれしも持っている豊かさなのではないかと思うのです。

自然を享受することと心理臨床

ところで、その人らしさを尊重し、必ずしも「よく」なることを目指すわけではない心理臨床の姿勢は、この自然を享受する在り方と共通しているのではないのでしょうか。被災地支援への参加にあたって私には、苦しみを何とかしたいという思いがなかったわけではありません。また、具体的に苦しみを減らそうとする

「よりよく」という志向が、「心理」を標榜する人々によっても、もたらされもしました。しかし、それは、とりもなおさず、ありのままであることを認めないメッセージにもなりえたでしょう。心理臨床では、その場にただ一緒にいること、ありのままを受け取ることが大切であるとよく言われますが、それがなぜ大切なのかを震災後の南三陸町での支援を通じて、自然を享受する在り方を知って、改めて考え直すことになりました。宮城県臨床心理士会の支援活動は、何ができるのかと思索しつつの取り組みですが、ただ一緒にいることしかできないからこそ逆説的に東北の、そしておそらくは人々全般の、基盤となっている自然を享受する在り方を蔑ろにせず、ありのままを尊重することにつながっているのかもしれない。

● 文献
赤坂憲雄（二〇〇九）『東北学／忘れられた東北』講談社学術文庫

災害支援とアウトリーチ

子どもの虹情報研修センター

中垣真通

静岡県は防災県

私が住む静岡県が東海地区なのかと問われると、少々心許ないというのが正直な気持ちです。愛知県と岐阜県は自信を持って「東海地区です」と言えるのですが、静岡県は時々この括りから外れてしまうことがあります。また、県内においても伊豆圏域だとテレビ東京をリアルタイムで視聴できるので、関東の一

部という意識が強いように思います。ともあれ、NHKの天気予報の地域区分では「東海北陸」の仲間に入っているので、東海地区の東端ということでご容赦いただきたいと思えます。

静岡県と言えば日本一の標高を誇る富士山が有名ですが、もうひとつ、水深が二五〇〇メートルに達する日本一深い湾、駿河湾に面しているという特徴もあります。駿河湾には駿河トラフがあり、ここではユーラシ

ア大陸の岩盤の下にフィリピン海の岩盤が潜り込んでいて、いずれここから巨大地震が発生すると言われています。そのため、一九七八（昭和五三）年に「大規模地震特別措置法」が制定されて、東海地震に備えて事前対策を強化する地域として静岡県など八都県が指定されました。以来、静岡県では県を上げて地震防災に取り組んでいます。

昭和五三年と言えば、成田空港が開設された年です。その頃から四〇年以上の長きにわたって、防災に取り組んでいる県民の防災意識の高さには目を見張るものがあります。私は県外出身者なので、静岡県に住み始めた当初、小学生が学校で使っている座布団に驚きました。「防災頭巾」なんです。また、昔から公共施設はどこも耐震固定をしてあり、本棚やロッカーが無骨な金属の固定具で壁にねじ止めされていました。

静岡県のCRT事業

このような県民性を持つ静岡県なので、心理支援においても緊急支援

への関心が高いように思います。例えば、平成一八（二〇〇六）年に全国で三番目に開始された Crisis Response Team（CRT）派遣事業もその一例です。この事業は、学校で重大な事件が発生した時に精神保健福祉センターを中心とした専門家チームが、その日のうちに学校に向いて緊急支援を行うものです。CRTは精神科医、臨床心理士、保健師等で構成されており、学校全体の心のケアを目的としたアウトリーチ型の支援を行います。

「心のケア」という言葉は、今では普通に使われていますが、社会的に知られるようになったのは阪神淡路大震災（一九九五年）がきっかけでした。その後、付属池田小事件（二〇〇一年）や小六女児同級生殺害事件（二〇〇四年）など学校を舞台とした衝撃的な事件が発生し、学校においても心のケアが必要だという認識が社会に広がりました。この新しい健康課題に対応すべく、山口県、長崎県、和歌山県そして静岡県等の精神保健福祉センターが先進的にCRT事業に着手しました。

CRTの支援の大きな特徴は、「場のケア」つまりコミュニティ全体を支援することです。場のケアはコミュニティが本来持っているホメオスタシスの回復を図り、そこに所属する成員の健康被害の拡大を防止することを目的としています。心のケアなので臨床心理士が活躍を期待されるのは当然のことなのですが、実は場のケアは、臨床心理士が得意としている心理検査や心理カウンセリングとちよつと勝手が違います。心理検査や心理カウンセリングは予約に基づいて面接室の中で行うのが一般的ですが、緊急支援で現場に向く場合は予め整えられた支援の仕組みがありませんから、それを作るところから現場の人と一緒に始める必要があります。

この作業は調整業務（コーディネイト）と呼ばれるもので、相手のニーズをくみ取る一方で、こちらの要求も明確に伝えるやり取りになります。通常の業務で行う「相談」とはだいぶ違ったやり取りで、「交渉」に近いと言えるかもしれません。また、書類を扱う事務や情報を管理す

る業務もあるので、ある程度事務的な仕事をこなすことも求められます。場のケアを始めるにあたっては、心理職としての専門性以前に、社会人としての基本が求められると私は感じています。

緊急時の心理支援

支援が始まってからも、通常の支援といささか勝手が違います。緊急支援は一時的な応援ですし、コミュニティ全体を対象にしますから、継続的な相談を個人に対して行う通常の支援とは異なつたやり方になります。まず、一時的な応援ということ、話の聞き方を少し変える必要があります。通常のカウンセリングのように自分が腰を据えて支援する役割を担うのではなく、これから継続的に支援する人につなげる役割をとります。ですから、「私に何でも話してください」という姿勢で相談者の体験やその意味を掘り下げて聞くのではなく、「次の先生にしっかりとサポートしてもらいましょう」と今後の支援に期待を持ってもらう

ことを意識して面接をします。おのずから話し合う話題も変わります。もちろん辛い気持ちや苦しい思いをお聞きしますが、今困っている事や生活の状況に関する事実情報も確認しますし、トラウマ反応に関する心理教育を積極的に行います。

次に、支援対象が個人でないことに関してですが、集団への心理教育やグループカウンセリングを積極的に活用する点も緊急支援の特徴と言えます。これらの技法を使うにあたって臨床心理士は、受容と共感の態度を基礎に置きながらも、発信力と先導性を発揮することが求められます。一般的なカウンセリングは相談者の訴えを受け止めることに重きを置きますが、コミュニティへの支援では能動的に「打って出る」ことがとても重要になります。これはダメージを受けながらも助けを求めて来ない人達に支援を届けようとする、「動機づけのない対象」への支援に取り組みむ上での必然なのかもしれません。

さて、ここまで静岡県民の防災意識の高さや臨床心理士の緊急支援を

紹介してきました。穏やかな気候に恵まれて、のんびりしていると言われることの多い静岡県ですが、実は「打って出る」臨床心理士たちが災害に備えて研鑽しているという特徴も持っています。元氣な臨床心理士が頑張っている地区として憶えていただけると、有難いと思っています。

四国での心理臨床 ——四国遍路とともに

徳島大学キャンパスライフ健康支援センター

井ノ崎敦子

ある日の面接にて

数年前になりますが、友人関係で悩んで継続来談していた学生が、「実は、週末にお遍路をし始めました。自転車で回るので数カ所ずつしか回れないのですが、回っていると自分は大丈夫と思えるから不思議です」と面接の中で告白してくれたことがあります。それは私にとって四国遍路の心理的効果を実感する出来事でした。

私の住む家のベランダから見える川沿いの道では、白装束を身にまとい、重そうな荷物を背負いつつもし

っかりとした足取りで颯爽と歩かれている姿をよく見かけます。

このように、四国において、四国遍路は日々の心理臨床から何気ない日常に至るまで、さまざまな場面で登場します。

（二〇〇〇年の歴史をもつ
四国遍路）

四国遍路、通称「お遍路」は、四国一周一二〇〇キロにわたる遍路道に点在する弘法大師ゆかりの四国霊場八ヶ所を巡る旅です。お遍路の起源には諸説ありますが、約一二〇〇年前の平安時代、真言宗の開祖である弘法大師・空海が四二歳のとき

に仏道の修行の場として四国八十八ヶ所を開いたのが始まりと言われています。

世界中には、メッカ巡礼やエルサレム巡礼など、聖地を巡る巡礼があります。それらは目的地を目ざす巡礼でありますが、四国遍路は最終的な目的地のない、世界唯一の円環型巡礼の終わりなき旅です（横山、二〇〇六）。

お遍路さん

初期のお遍路は、僧侶が弘法大師の修行の地を尋ね歩くという過酷な修行でした。そのため今でも多くのお遍路さんは、白装束、金剛杖、菅笠といった同じような格好で巡礼をします。その衣装には、過酷なお遍路の途中で息絶えたとしても、そのまま成仏できるようにという意味や、俗世を一度離れて修行するという意味が込められています。

四国に住む人は、お遍路の大変さを理解しているので、巡礼者に対して尊敬や応援の気持ちを抱いています。それが「お遍路さん」という愛

称につながっています。四国には年間を通して国内外の至る所から多くの方がお遍路をされにやってこられますので、あちらこちらでお遍路さんを見かけます。四国に住む人が「頑張ってくださいね」などとお遍路さんに声をかけることもめずらしくありません。

高度経済成長や本四架橋の開通のおかげでマイカーや公共交通機関などを利用して巡礼される方が多いですが、一九九〇年代頃からは原点復帰のように徒歩による「歩き遍路」が見直されるようになり、「歩き遍路」をされるお遍路さんも増加しています。

（「同行二人」と
自分自身との対話）

お遍路さんの合言葉として「同行二人」という言葉があります。お遍路さんが身に着ける衣装の多くにも「同行二人」の文字が書かれています。たとえ一人でお遍路という修行をやっている、そばで弘法大師が見守っているという考えです。今は公共交通機関や情報機器の発達やコ

ンビエンスストアの普及などで便利な世の中になっているので、昔ほどお遍路は危険な旅ではなくなりました。しかし、昔のお遍路は厳しい修行だったため、途中で亡くなってしまう事もありました。そこで「同行二人」という言葉がお遍路さんの心の支えとなったのです。

今でも「同行二人」は、弘法大師が見守ってくれているので、辛いことや嫌なことがあっても、安心して前向きにとらえることができるようになるという考え方として大事にされています。つまり、「同行二人」は、心の中にいる弘法大師との対話を通して自分自身との対話をする旅であることを意味しています。

「お接待」と 人に支えられている実感

遍路道を行くお遍路さんに対して、遍路道で生活する四国の人々が飲み物や食べ物、時として一夜の宿まで提供してくれる無償の行為のことを「お接待」と言います。「お接待」は、お遍路さんへの気遣いとともに、弘法大師への思いであり、信仰に基づ

く行為でもあります。お遍路さんは「お接待」を受けることで、さりげない他人のやさしさに触れ、生きる喜びを感じるとともに、ほんの小さなやさしさが、どれだけ人を幸せにするかを実感することができます。

心理臨床と四国遍路

長い歴史の中で変化を遂げてきたお遍路ですが、今も昔も、弘法大師との対話を通して、自分自身との対話をする修行という意味は変わらな

いものかもしれません。
黒木（二〇一二）は、弘法大師が見守ってくれていると感じるときは、四国の自然、お寺での勤行と祈り、地元の人たち、お遍路仲間などの「つながり」により、感謝の気持ちが湧いたときであると述べています。また、歩き遍路の経験を通して、歩き遍路は、これまで非自己とらえていた側面も受け入れて自己をまとめる効果があるという点で、心理臨床における自己変容に近いものであると述べています。

この黒木の指摘を参考にしつつ心

理臨床について考えると、お遍路の「同行二人」は、クライエントとセラピストの関係性にも当てはまる言葉かもしれません。クライエントの人生の歩みを、隣でセラピストが見守るといふ関係性はまさに「同行二人」ではないでしょうか。セラピストがそばで見守っていることを感じることで、クライエントが、自分自身との対話の中で生きる意味を見出すことができるという過程がお遍路です。また、クライエントにとって、セラピストによる支えだけでなく、日常生活の中での他者からの何気ないやさしさを受け取ることも生きる意味を見出す重要な体験になっていると思われま

す。それはお遍路で言えば「お接待」の体験に重なるのではないのでしょうか。
冒頭で登場した学生も、面接場面での私との対話とお遍路体験を通して、自分自身との対話を積み重ねることで友人関係での悩みを解決していきま

ました。学生のみならず四国に住む人は、お遍路をすること、お遍路さんと出会うこと、あるいは四国遍路について語ることを通して、知らず知らずのうちに自分自身との対話をし、生きる意味を見出しているかもしれません。四国で心理臨床に携わる際、長い歴史の中で根付いてきた「同行二人」の考え方や「お接待」の精神が背景にあることを念頭に置いて支援を行うと、クライエントについての理解が深まり、支援がより役立つようになると感じます。

●文献

黒木賢一（二〇一二）「遍路セラピー——歩き遍路体験による心の変容」『トランスパーソナル心理学／精神医学』二二（一）、三八〜四八頁
横山良一（二〇〇六）『必携！ 四国お遍路バイブル』集英社文庫
星野英紀（二〇一一）『図説 地図とあらずじでわかる！ 弘法大師と四国遍路』青春出版社



心理臨床の地域性…沖縄県

はじめに

青い空に透き通るエメラルドグリーン
の海、開放的な空間で楽観的な
ウチナーンチュ（沖縄の人）が多く、
沖縄には心が病んでいる人は少ない、
沖縄に行けばつらいことも忘れられ
る、そんなイメージを抱く人が多い
のではないだろうか。離婚率や一
〇代の妊娠、子どもの貧困率は他県
と比べて高いという現実、気候や

沖縄国際大学

野村れいか

風土のイメージで覆われ、外からは
見えにくくなっているかもしれませ
ん。

毎年六月二三日は沖縄の公立学校
や多くの職場がお休みとなります。
戦没者の霊を慰め、平和を祈る日と
して制定された「慰霊の日」です。
戦後アメリカ統治下にあったこと、
一九七二年に本土復帰したことも沖
縄の地域性を理解するうえで欠か
せない出来事です。冒頭でこんなこ
とを書いて、読者の皆さんの沖縄イ

メージを悪くしようという思いは全
くありません（生粋のウチナーンチ
ユである筆者は、COVID-19が
落ち着いた頃にぜひ、皆さんに沖縄
に来ていただきたいと思っ
ています）。しかし、沖縄の現状や歴史的
背景について知ってもらったうえで、
心理臨床の地域性を考えてもらいた
いと思ひ、先に記載しました。

先祖崇拝と沖縄

清明祭ということばを聞いたこと
がありますか。沖縄では「シーミ
ー」と言います。沖縄に四月〜ゴー
ルデンウィーク辺りの時期に訪れ、
高速道路を走ったことがある人は途
中の電子掲示板に「渋滞情報…四月
〇日（日）清明祭」という文字を見
たことがあるでしょう。清明祭（シ
ーミー）は、旧暦の二四節季の「清
明」の時期に行われるお墓参りです。
この時期の週末はお墓に行くために
高速道路が渋滞するため、高速道路
の掲示板に毎週掲載されます。沖縄
ではご先祖や自然を敬う文化があり、
シーミーやお盆は大切な行事となっ

ています。沖縄では何か不幸や災い
があると、ヒヌカン（火の神様…台
所に祀っている）や仏壇に手を合わ
せたり、ユタに相談に行ったりしま
す。

ユタの存在

皆さんは「ユタ」を知っています
か。沖縄の中でも田舎で生まれ育つ
た筆者にとってユタは当たり前にそ
こにいました。そのため、改めてユ
タを説明するとなると難しかったた
め、この原稿を書くにあたり、イン
ターネットで「ユタ」を検索し、そ
の意味を調べてみました。巫女、シ
ヤーマン、霊能者と出てきました。
個人的にはどれもしっくりきませ
んが、読者の皆さんにはイメージし
やすいでしょうか。

事故に遭った時もユタを呼んでマ
グイ（魂）を戻してもらいましたし、
家を建てる時も井戸のことやヒヌカ
ンのことを両親はユタに相談してい
ました。地域の御宮を一年に一回、
お盆の時に開けて祈禱するのも地域
のユタでした。生活の中でユタに相

談したり祈禱してもらったりすることに違和感はありませんでしたが、それが「当たり前」のことではないと知ったのは大学院進学を機に福岡で生活をするようになってからでした。

福岡はお墓の大きさも行事も沖縄とは異なりまして、ユタに相談するという文化はありませんでした。

その後、沖縄に戻り、精神科病院で長年勤めましたが、そこでは沖縄で古くから「医者半分ユタ半分」ということばで表現されるように、医者とユタが共存する世界がありました。身体症状や精神症状が出た際、病院を受診する前にユタにみてもらう、病院にかかってもユタにみてもらうことがあるのです。医師も患者さんやご家族が「ユタにみてもらった」と言ってもそれを否定することはありません。最近ユタから勧められて病院を受診したという方もいます。一見、相反するような「医療」と「ユタ」へみてもらう行為がどちらも否定することなく、そこに在るのです。心理士も「ユタにみてもらった」「ユタからこんなこと言

われた」という話も聴きながら、その方の語りに耳を傾けます。

個人的な体験を通して… ユタと癒し

数年前に父が病気で他界した時、母の喪失体験を支えたのは心理士（私）ではなく、ユタでした。喪失体験や死の受け止め方はそれぞれの立場によって異なります。父の死は突然のことで、しかも沖縄から離れた地で闘病生活を送っていました。

元気になって沖縄に戻ってくると信じていたのですが、一緒に飛行機に乗ることはできず、帰沖してからも葬儀の準備やら対応に追われ、家族は悲しむ暇もありませんでした。母は葬儀の前後からいつも以上にぼんやりしており、父の死の直後大きく泣き崩れるでもなく、淡々としているように見えました。

四十九日が終わった頃、母はユタの元を訪れ、父の声を聴いてきたことを教えてくれました。ユタは父が母に感謝していること、嫁にも感謝していることを語ったそうです。父は無菌室に入っており、ことばを交

ません。

やまじい

今回の内容が「沖縄」全体を現すものではありませんし、沖縄でも地域や世代によってユタやご先祖への考え方は異なると思います。しかし、沖縄で心理臨床家として地域の方々に寄り添う時、ご先祖や自然を敬い大切にす文化や「医者半分ユタ半分」の文化を理解する視点は欠かせないと考えます。心理職がユタのような「街の相談相手」として、地域の方々に気軽に相談してもらえるように、精進していこうと思います。



斎場御嶽から見る久高島

四〇周年記念事業検討専門部会

「記録の大切さ」

学会設立四〇周年を迎えるにあたって

この原稿は、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が出されている中で書いています。新型コロナウイルス感染に関する問題に対して、本学会がどのような対応を取ったか記録を残すことは将来の学会活動のためにも重要です。感染者の治療は医療が中心となりますが、それと同時に心理的支援も非常に大切です。

例えば、「感染者、医療従事者とその家族などの不安や精神的ストレス」「感染者への偏見、差別、イジメ問題など」「長期間の休校による

児童生徒への影響」「外出自粛や休業要請による精神的ストレス」等への心理的支援が求められています。

東日本大震災の時も、被災者をはじめ、救援者の精神的ストレスや放射能汚染に関する差別やイジメが起きました。そして、震災後一〇年経った現在も、PTSDの症状で苦しんでいる方がいます。今回の新型コロナウイルスも緊急事態宣言が解除され通常の日常生活に戻ったとしても、心理的な問題はかなり長期間継続することが予想されます。本学会では災害支援検討委員会で、三一回（二〇一二年）から三八回大会で発表された災害支援に関する論文一

四〇周年記念事業検討専門部会委員長 田中新正

四一件を分類し記録として残すことになりました。今回の新型コロナウイルスに関する学会の活動と研究報告についても、正確な記録を残したいと考えています。

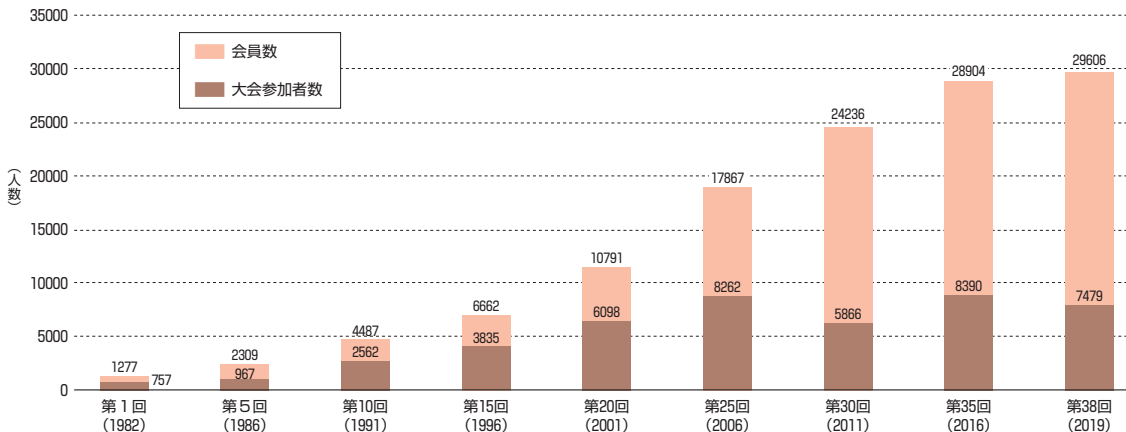
四〇年の歩み

一九八二年三月二二日 日本心理臨床学会として発足

「心理臨床科学の進歩と、会員の資質向上、身分の安定をはかることを目的とする」

同年第一回大会開催…会員数一二七七名（大会参加者数七五七名）

第一〇回大会…会員数四四八七名（大会参加者数二五六二名）



第二〇回大会…会員数一万七九一名
(大会参加者数六〇九八名)

第三〇回大会…会員数二万四二二六
名(大会参加者数五八六六名)

昨年第三八回大会…会員数二万九
〇六名(大会参加者数七四七九名)

右図のように第二五回大会頃まで
は、会員の約半数が参加していま

した。第三〇回大会は東日本大震災、
第三五回大会は熊本・大分の地震災

害等のため、参加者が大幅に減少し
ました。昨年の第三八回大会は第一

回公認心理師試験のため急遽開催日
程が六月に変更となったことなどで

参加者が減少しました。
現在、会員数は二〇二〇年三月末

で二万九七〇五名となっています。
今年の第三九回大会は八月に開催

を予定していましたが、新型コロナ
ウィルスの影響によりWEBによる

開催となりました。初めてのWEB
大会に向けて、開催方法等について

現在検討を始めているところです。

二〇〇八年から本広報誌『心理臨
床の広場』を年二冊発行することに
なりました。

二〇〇九(平成二二)年四月一日
一般社団法人となる(定款 目的
第三条の一部)

「心理臨床学に関する研究、調査及
び普及啓発等の各種事業を行い、心

理臨床学の健全な発展と国民の心の
健康増進に寄与することを目的とす

る」

この一〇年間の主な社会状況と事業活動

・二〇一一年…東日本大震災心理支
援センター開設(日本臨床心理士

会、日本臨床心理士認定協会と合
同)、「心理臨床学事典」発行

・二〇一三年…「心理臨床学研究」
大学図書館の開架化、学会誌掲載

論文のアブストラクトのホームペ
ージ掲載

・二〇一四年…英語論文雑誌
「Online Journal of Japanese Clinical

Psychology」発行

・二〇一五年…国家資格「公認心理
師法」成立

・二〇一六年…熊本・大分を震源と
した災害支援、大会論文集の電子
データ化

・二〇一七年…若手の会発足、九州
北部豪雨災害支援

・二〇一八年…災害発生時初期資金
援助制度創設

・二〇一九年…「公認心理師」の誕
生

・二〇二〇年…新型コロナウイルス
により第三九回は急遽WEB大会
として開催

四〇周年記念事業検討専門部会設置目的

今後の本学会活動を検討するため
に本委員会を設置し、以下のような

事業計画を企画し準備を進めていま
す。

【記念事業の計画について】

・四〇周年記念誌の発行…三〇周年
記念後の一〇年間の活動記録

インタビュー集「先人に訊ねる日
本の心理臨床学史」、会員動向調

査

・第四〇回大会では講演に替わる
「心理面接のデモンストレーショ

ン」を企画

・記念式典、記念祝賀会の開催

五〇周年に向けての課題

古事記の序文に「稽古照今」と
いう一文があります。「古を稽え今

に照らす」という意味です。「稽古」
の稽えるとは、対象を観察するだけ

でなく積極的に交わって、比べ、調
べて身につけていくことです。今回

の新型コロナウイルスにより、学会
活動や運営のあり方についても新た

な試みが求められています。学会活
動…学術大会や講演会、シンポジウ

ムについてもWEB開催や録画の公
開についての検討が必要です。会議

のあり方についても、WEBによる
開催を検討することが必要です。学

術団体として、研究成果の情報発信
と共に、心理臨床の実践活動にどの

様な貢献が出来るのかについても再
検討が必要です。

また、新型コロナウイルスの問題
をはじめ、海外との連携なくしては

解決が困難な問題が多くなってきて
いる状況においては、心理臨床研究

に関しても国際交流の必要性が高ま
っています。本学会においてもさら

なる国際交流の輪を広げていくこと
が大切だと思われれます。

てんてん こころの広場に行く



ほそかわ てん てん
細川 貂 羽 々



細川貂々(ほそかわ・てんてん) 1969年生まれ。セツ・モードセミナー卒業後、漫画家、イラストレーターとして活動。「ツレがうつになりまして。」が大ベストセラーに。「それでも母が大好きです」、「わたしの主人公はわたし」、「日帰り旅行は電車に乗って 関西編」、「生きづらいでしたか?」など著書多数。

だけど

どうして
そういうふう
に
できるんですか？

と、よく聞かれるので

どうして自分が
そうできるのか
説明できるよ
うに
ならないとな

と、いつも
思います



そこで
考えてみました



「ネガティブなことを
ひどりで抱えこんでたら
しんどいから」

「大変な時は
一歩引いて見て
楽しんじゃうほうが
ラクだから」

「がまんといひひひひ
時間がたてば
解決してくれるから」

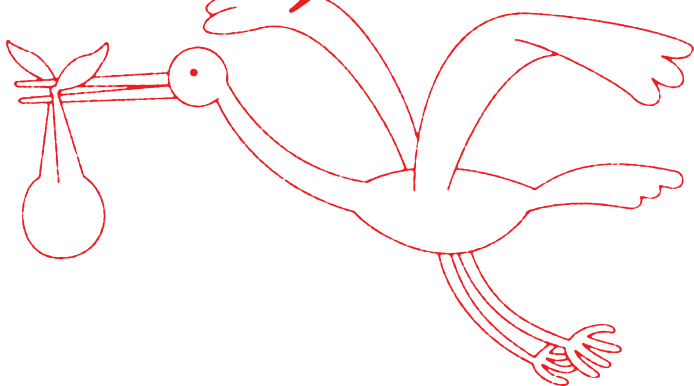
でも、きくと



この説明だと
「でも、あなたの
ようにはできないの
って言われそう
だなあ……」



心理臨床 なまよ



心理臨床家が関わっている分野や領域は広く、心理支援の対象者も多岐に亘ります。今回の記事においても、たとえば、NICU（新生児集中治療室）で働く心理職がいることがわかります。それも赤ちゃんのご家族の心理支援をしているだけでなく、大事な仕事をしていることが記事から伝わってきます。児童相談所

は、名前を知らない人は少ないと思えますが、そこで実際に何が行われているのか、その中で心理職はどういう動きをしているのかは意外に知られていないかもしれません。パートナーシップやカップルカウンセリングなども取り上げていますし、SNSや電話相談といった媒体に特徴がある仕事も取り上げています。医

療観察法は、身近に感じられないかもしれませんが、日本の社会の中に存在しています。

普段、意識していなくとも、社会のいろいろなシーンで、ふと気づくと心理職と出会っていた、それも自然な形で出会っていた、というのが当たり前の日本になるといいなと願っています。運転手さんや料理人や

保育士さんが自分の生活圏の中にいるのが当たり前のように、です。さまざまな困難やストレスがどうしようもなくなってしまう前に、生活者に身近な存在としてそれを防ぐことができたり、軽減することができたら、生きやすい日常に近づくのではないかと思っています。

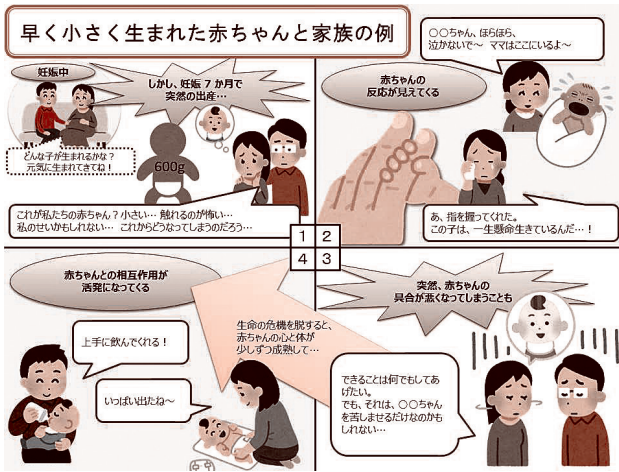
日本大学文理学部心理学科

津川律子

NICUで育つ赤ちゃんとその家族

赤ちゃんの誕生とは、温かく喜ばしいことです。実際、日本は新生児の死亡率が世界で一番低い国です。しかし、深刻な病気を抱えて生まれてくる赤ちゃんはたくさんいます。

NICU（新生児集中治療室）



Neonatal Intensive Care Unit)とは、

疾患や障害をもって生まれてきた赤ちゃんや、早く小さく生まれた赤ちゃん、お産のときに調子が悪くなった赤ちゃんなどが入院する場所です。独特な雰囲気、薄暗く、しきりにアラーム音が鳴り、小さな保育器の中に眠る乳児の体にはいくつもの管

がつながれています。家族は戸惑いながら所在なさげに過ごしています。赤ちゃんが入院治療を必要とすることや、病気や障害を抱えて生まれることは誰のせいでもないのですが、おなかの中で育ててきた母親は自分をひどく責めていることが多く、今の状態や将来への強い不安から子どもと関わることに拒否感を示す家族もいます。また家族は、今は落ち着いていてもいつ事態が悪くなるか分からないという不安を抱えています。そんな中で、NICUをいかに

親子の関わり場とし、親の精神的安定や親子の関係づくりを支援していくかということは、常に大きな課題です。

産婦人科が舞台の漫画『コウノドリ』（講談社）をご存知ですか？フィクションですが、現実を捉えた作品で、赤ちゃんの家族や医療従事者の心の動きが繊細に描かれています。

赤ちゃんの家族の心のケア

周産期医療の場における心のケアの必要性が叫ばれています。心理の専門家が配置されている産科や新生児科はわずかです。多くは、医師や助産師、看護師等が赤ちゃんの身体管理やケアを行いながら、深い共感をもって赤ちゃんや家族に関わっています。誤解を恐れずにいえば、心理士がいなくても赤ちゃんや家族の「心のケア」はなされているのです。心理士の仕事は家族のカウンセリングだろうと思われるかもしれませんが、もちろん、それもありますが、NICUの心理臨床で大切なことは、病棟全体を心理臨床の場とし、赤

ちゃんや家族とともに「居る」ことです。家族が少しでも安心して赤ちゃんとともに過ごせるように、支援します。寝たきりで反応が乏しく、治療のために抱っこも授乳もできない状況の赤ちゃんも気持ちよく過ごすというのは、難しいことです。当院のNICUでは、面会者が基本的に両親に限られており、ひとりで面会に来た母親や父親が孤独を感じていることもあります。

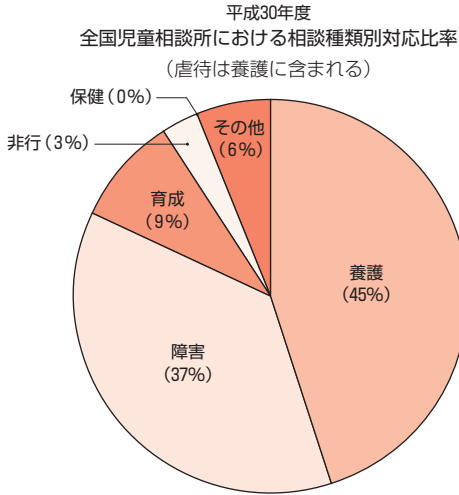
心理士は、ベッドサイドを訪問して家族と一緒に赤ちゃんを見つめたり、赤ちゃんを真ん中にしてお話をしたりします。赤ちゃんの調子が悪いとき、心理士はケアや治療を何もできませんが、「何もできない人」が家族と一緒に不安になり、回復を祈り、小さな成長やちよつとした面白さを見つめることに、なにか意味があるのではないかと考えています。NICUに赤ちゃんを入院させたがる家族などいません。NICUで最期を迎える赤ちゃんもいます。それでも家族にとって、赤ちゃんが生まれ育った記憶に残る場所となるのです。

児童相談所

児童相談所心理職の業務

児童相談所（以下、児相）は、原則一八才未満の児童に関わる多岐にわたる相談を受けていますが、現在、主に何を業務にしているかといえば、虐待対応と答えざるを得ないでしょう。

虐待事例では、虐待行為の再発を防ぐことが目的となりますから、主な支援対象は虐待者（大人）となり、その支援は「児童福祉司」が担うこ



とになります。児相における心理職は「児童心理司」という名称で呼ばれ、児童に関わる担当として業務を行い、必ず支援上のパートナー（主に児童福祉司）がいることが一つの特徴になっています。虐待事例では、必ずしも児童が支援対象になる訳ではなく、虐待者だけへの支援で終了することもあるので、児童心理司が関わらない虐待事例もたくさんあります。

児童心理司は、被虐待体験の影響や児童の特性についてアセスメントし、以後の児童の養育について児童福祉司と共に虐待者にアドバイス等を実施します。支援が継続する場合は、アセスメントに基づいた心理的アプローチを実施しますが、神奈川県の場合、現実には一〜二カ月に一回程度の面接となり、児童の状況確認で終わってしまうことも少

なくありません。

一時保護と公的保護（里親委託・児童福祉施設（以下、施設）措置）

児相は、虐待内容が重篤な場合、児童の安全を担保するため、虐待者と生活の場所を分離するために、児童を一時的に保護（一時保護）したり、その後も児童の安全が確保できない場合は、公的保護を行います。こうした事例では、児童の傷つきが大きいために児童心理司が継続的に支援することが多くなります。

近年、被虐待によるトラウマの影響、愛着関係の希薄さ、対人関係の不熟さ等により里親や施設で、大人や他の児童に対して不適切な言動が表出され、対応に苦慮するということが多くなっています。こうした言動に対して児童心理司は、直接、児童へ心理的アプローチを実施すると共に、関係者に対して背景となつてくる体験・症状の意味の説明（心理教育）や児童にどのように関わって

いけばよいかのアドバイス（コンサルテーション）も行います。

また、乳幼児から施設入所した児童の中には、なぜ自分が施設に入所しているのか、その理由がよく理解できておらず、それまでの人生が断片化している場合もあり、児童なりの物語を再構築するためのライフストーリーワーク（LSW）を児童福祉司や関係者と協力しながら実施していくこともあります。

長い時間軸での支援

児相における児童への支援のうち公的保護のような児童の発達を保障していく必要がある事例の場合、児童の発達時期に応じた支援が必要であり、それは児童心理司の支援だけでは十分ではなく、関係機関との協働が必然であり、児童の成長を信じつつ見通しを持ちながら息の長い支援が必要であると感じています。

同性パートナーシップ制度

LGBTサークル Cielarko ほそみたく

「ホモ」「オカマ」という言葉で傷
ついている人がいます

あなたの友達にLGBT（性的マイノリティ）の人はいますか？しかし、性的マイノリティへの差別や偏見は根強くあり、親ヘカミングアウトしている人は五人に一人しかいません。人口の約三〜一〇%いると言われている性的マイノリティは可視化が比較的困難であり、身近なところにおいても気が付いていないことが多いのです。同性愛者の自殺率は異性愛者の約六倍と言われていますが、当事者から相談を受けたことのある臨床心理士はどれほどいるのでしょうか？ 様々な生きづらさを抱えている性的マイノリティについて、臨床心理士の養成プログラムの中で学ぶ機会が必要だと感じます。

世界の中での日本（同性婚をめく
こ）

アメリカでは二〇一五年の同性婚の成立をきっかけに性的マイノリテ

ィの自殺率が減ったと言われています。世界では二〇二〇年五月現在、二八の国・地域で同性婚が認められています。日本では二〇一九年二月に婚姻の平等を求める一三組の同性カップルが、国に対して同性同士で結婚できないことは憲法違反であるとして訴訟を起しました。憲法で守られるべき個人の尊厳を侵害し、平等にも違反するという人権侵害にあたるという訴えです。

同性婚（に類する）制度の成立により法的に認められた先輩達の生き方が、未来に絶望する若い性的マイノリティへのロールモデル、希望になるから必要なのです。

みんなの意識が変わらないから、法制度から変える必要がある。それくらい、世間や社会からのステイグマは強固で、当事者の自殺率の高さにも繋がっています。訴える症状や生きづらさの背景にもかしらセクシュアリティの問題があるかも、と想像できる臨床心理士はどれだけ

いるのでしょうか？ セクシュアリティ自体がメンタル不調の原因ではなく、マイノリティへのステイグマが心身を蝕むことがあるのです。

同性パートナーシップ制度の導入 に向けての大阪府枚方市での取組

同性婚への一つのステップとして、同性カップルの関係を公的に認める「パートナーシップ制度」は全国三四自治体で導入されています（二〇二〇年一月末時点）。

私も「里親になりたい」とうかがいカップルの相談を受けたことがきっかけで、枚方市で「同性パートナーシップ制度」の導入に取り組みしました。まず、性的マイノリティのことを人権問題として取り組んでくれる市会議員に、彼らの願いを話しました。二〇一八年九月議会で質問してもらい、紆余曲折の末、二〇一八年二月議会で、枚方市も「二〇一九年四月から同性パートナーシップ制度を導入します」という回答を得

ることができました。私も市の担当者とも何度も話し合いをし、枚方市長ともレインボーミーティング（性的マイノリティの当事者が直接市長に意見を伝える場）で、他のマイノリティと大きく違い、家族が安全基地にならないことを伝えました。「同和問題」や「外国人」などのマイノリティの場合、家に帰れば家族が問題を共有してくれますが、性的マイノリティは家族からの理解が得られないことが多く、当事者が孤立感を深めている現状があることなどを伝えました。その様子は広報ひらかた令和元年五月号 (<https://machino.town/p/52876#book2>) に掲載されています。

全ての人がありのままの性で暮らすことができる、自分らしく、安心して暮らせる国こそ、美しい国日本だと思のですが、今の日本の現状をどう思われますか。

● 参考資料

宝塚大学・日高研究室 <http://www.health-isan.jp/>
アウト・ジャパン 二〇一九年三月四日の記事
より <https://www.outjapan.co.jp/gbcolumn-news/news/2019/3/4.html>

SNSリテラシー

徳島県立中央病院

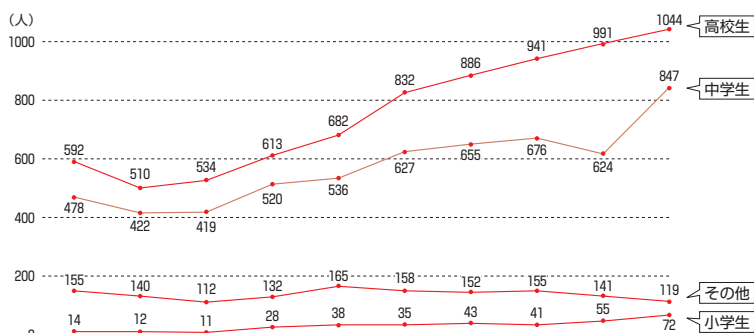
海面敬

SNSの特徴

SNSの普及率は高く、多くの人が何らかのSNSを利用して生活しているのではないのでしょうか？ SNSの中にはたくさんの情報で溢れかえっています。単純に知人の近況についてやり取りできるだけではなく、企業も自社の製品情報について工夫を凝らして発信することも当たり前になりました。また、そういった情報を利用したYouTubeという新しい仕事も出てきており、大人のみならず、多くの子どもたちも夢中になっています。

SNSはそのアクセスのし易さから、誤情報も拡散されやすく、不安感情が煽られたりすることがあります。また、簡便な操作で多彩なメッセージをやり取りすることができ、ため若者に受け入れられやすく、そういった特徴はしばしば犯罪にも利用されます。

【SNS】学職別の被害児童数の推移



出典：警察庁ウェブサイト (https://www.npa.go.jp/policy_area/no_cp/uploads/kodomonoseihagir1.pdf)

今回は若者を中心として取り上げます。警察庁のデータによれば、SNSを利用して犯罪被害に遭った一八歳未満の児童数は年々増加の一途

SNSでの犯罪被害

をたどっています。大半はスマートフォンを利用したもので、性犯罪が大勢を占めています。特に中学生の被害児童数が増加しており、中には強制性交や略取誘拐等の重大な犯罪も発生し、警察庁はSNSの運営事業者への働きかけや、性被害防止のための広報啓発を強化しました。

また、忘れてはならないのが、平成二九年に神奈川県座間市で発生した九人の連続殺人事件です。本事件は、犯人がSNSを利用して自殺願望を発信した被害者に同情的な態度を装って近づき殺害に及んだ、極めて卑劣な犯行で、事件後に政府は関係閣僚会議を開き、再発防止策を講じることとなりました。これら犯罪被害は、情報社会の進化とともに若者がスマートフォンの持つ時期が早まってきている昨今、私たち全ての人にSNSリテラシーの大切さを知らしめることとなりました。

SNSリテラシー

先日、インターネット・ゲーム障害について講演を行った際、とある学生から、「ネットでの関係が怖いことがわかった。でも私はSNSの人を信じられるから大丈夫と思う」というメッセージをもらいました。

この学生の背景事情はわかりませんが、この言葉からは、自分には関係がないだろうという意識と、SNS上の関係性を理想化しているところが読み取れます。脳は二〇代後半までは未熟であり、特に一〇代は、先のことを考えて行動することや、衝動を律する力に弱さがあります。共感するような言葉かけや多彩な画像から、自分の想像力で見えない情報をポジティブに補完し、行動してしまうのかもしれない。

子どもがメディア機器に触れる機会が増加する中、親はSNSの情報には嘘や主観が多いことを知った上で、子どもと一緒に取り組めるルール作りをすることが必須となるでしょう。また、親以外にも現実で本当に信頼できる相談相手を作れるよう支援していくことが大切です。

EAPとはEmployee Assistance Program（従業員支援プログラム）の略で、産業・労働分野の心理臨床実践の一つです。このような従業員向けのメンタルヘルス支援を社内で開催する企業もありますが、多くは社外のEAP会社への業務委託により、健康保険組合加入者本人（従業員）とその扶養家族は、外部EAP会社が提供する電話相談やメール相談等の支援サービス（多くは無料）を受けることができます。ここでは電話相談についてお話しします。

電話相談の構造

——心理支援のいろいろな形

通常の面接相談は一回五〇分、継続性、対面式ですが、私が勤務する外部EAP会社の電話相談は一回二〇分、一回性、匿名性という構造です（外部EAP会社によって構造は異なります）。全国からかかってくる相談者の年齢層は幅広く、相談内容も多種多様です（メンタルヘルス

から職場ストレス、子育て、嫁姑問題、ご近所づきあい、恋愛、性格、人生相談まで）。当然、電話で匿名なのでお互いの氏名や風貌もわからないままですし、予約制でもないので、突然かかってきた電話を受けた者がそのまま相談担当者になります。従来の面接相談の構造と異なる新しい形の電話相談は「心理支援の多様性」を具現化したものといえますでしょう。

電話相談のプロセス——私の場合

電話相談が始まると、五〜一〇分くらいまでは訴えを聴きつつコーラーのニーズを把握し、一五分くらいまでにはコーラーの頑張れているところやアドバイスの提案につながるネタを集めます。コーラーの声の調子や息遣いなどから不快にさせていないかに留意しつつ、残り時間を計算しながらうまくネタを引き出す質問をすることは、まさに専門家の腕の見せ所です。そして、一八分ごろ

からは結めの段階に入ります。労いつつコーラーの状況に合わせたオーダーメイドのアドバイスなどを提案し、コーラーが満足感を示したら終了です。

短時間で一度きりの一発勝負

——難しいこともあるけれど

二〇分という短時間での一発勝負なので、時間を無駄にせず効率的なやり取りを通して共感や提案をしていく必要がありますが、スムーズにいかないこともあります。例えば、電話の電波状態の悪さや受話器と口の位置のズレによる音声の聴き取りづらさとか、そこに方言もブレンドされると相談内容はほぼ理解不能状態に陥ります（もちろん、負けじと想像をフル活用して理解に努めます）。また、複雑な問題の経緯や状況の説明に時間を要する場合、どうしても共感や労いだけで制限時間になり、仕方なく「申し訳ありません、そろそろお時間になってしまつて

……」との言葉で察していただけのコーラーは切電されますが、この段階で「どうしたらいいですか」とアドバイスを求められると、さあ大変！ ネタ集めが十分ではないのでアドバイスの持ち駒はなく、ありふれたアドバイスには当然コーラーの声の反応はイマイチです（……あえなく投了）。そんなとき、「これでも専門家？」と自分の力量のなさに突っ込みを入れたくなりますが、めげてはいられません。制約のある状況下でもスキルを極めていくこと、それが専門家の仕事だと思っています。



医療観察法

国立病院機構橋原病院

壁屋康洋

医療観察法

事件を起こせば警察に逮捕され、裁判にかけられ、罪に応じて受刑する。これが刑法の大まかな流れですが、刑法三十九条に「心神喪失者の行為は、罰しない」「心神耗弱者の行為は、その刑を減輕する」と定められています。つまり精神障害のために良いことと悪いことの区別がつかずに起こした行為は、自分の意思とは言えないので、本人に責任を問えない。精神障害のために殺人・放火・傷害などの重大な他害行為を起し、受刑しない人（法の対象者）に対し、罰ではなく「病状の改善及びこれに伴う同様の行為の再発の防止を図り、もってその社会復帰を促進」することが医療観察法の目的です。

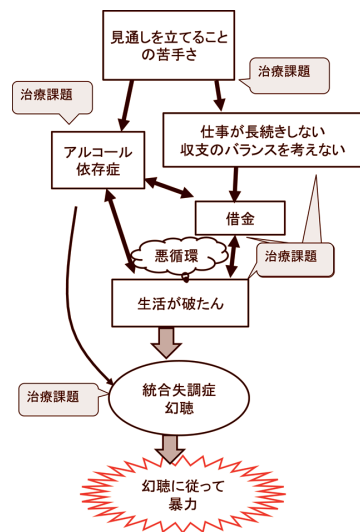
入院医療

医療観察法では裁判所から入院命令あるいは通院命令を受け、対象者は強制医療を受けます。最初は病識

がなく、入院に納得していない対象者も多いですが、事件は認め、繰り返したくないという対象者が大多数です。入院医療では全ての入院対象者に医師・看護師・作業療法士・精神保健福祉士・心理職の多職種チームで社会復帰を目指します。退院後の暴力につながる要因の研究から、衝動性、ストレス耐性や感情コントロール、金銭管理や身の回りの家事の問題、他者との適度な距離を保てないこと等が影響することが分かっています。対象者は妄想などの精神症状から事件を起こしており、精神症状の改善は重要ですが、衝動性や生活能力など、多くの要因が重なって事件が起るため、他害行為がなく社会復帰ができるよう、それぞれの専門領域を持つ多職種がチームで治療に当たります。

ケースフォーミュレーションと多職種チーム

再発防止のため、事件に至った要



因をアセスメントしますが、近年はケースフォーミュレーションを行って要因を視覚化し、多職種で治療課題を共有することが重視されています。

凶の事例は、アルコール依存症と借金から生活が破たんし、さらに統合失調症の幻聴に従って事件を起しました。幻聴を改善し、退院後も治療を継続することに加え、アルコール依存症の治療と、金銭管理の訓練も必要です。図のようなケースフォーミュレーションを多職種で対象者と共有し、心理職は事件の振り返り、アルコール依存症への支援を行うしつつ、作業療法士や看護師による金銭管理や生活面の支援と連携します。多職種で話し合っアセスメン

ト・治療に当たりますが、心理職にはアセスメントを通じた多職種チームのかじ取りが期待されることもあります。難しい事例は多いですが、多職種でサポートし合えることで対象者にも心理職にも助けになります。

通院医療とセルフモニタリング・クライシスプラン

入院を経ずに通院命令で医療が始まることもあります。入院機関の退院後も裁判所からの通院命令によって医療が続きます。通院中はセルフモニタリングを用いて対象者が日々自分の状態をチェックし、状態の変化があれば、事前に作成したクライシスプランに沿って対処します。セルフモニタリングとクライシスプランは医療観察法医療から一般の精神科医療に広まった重要な道具です。多くの人的資源を投入しつつ、最新の知見を活用しようとする点、そのための研修機会とネットワークの多さも医療観察法の強みです。

カップルの「危機」…危険？それとも機会？

本誌が世の中に出回る頃、コロナウィルスの問題が世界的にも落ち着いていけば何よりですが、どうでしょう。これまでの日常と異なる、ストレスフルな状況にさらされると、人々は他者との心のつながり、特に親密な二者関係を希求しやすくなるのでしょうか、ネットによるマッチングサービスが今まで以上に流行っているとか、カップルが前よりも家事や育児などを協力し合い、二人の関係が良くなったとの声も多く聞きます。しかし同時に、「コロナ離婚」という言葉が取り沙汰されたり、また由々しき問題のひとつとして、DVの増悪も指摘されたりしています。まさにカップルにおける「危機」とは、個人の危機よりも「危険」かつ「機会（好機）」でもあるとの二重性を如実に有していること、それが良きにつけ悪しきにつけ、力動的に展開し易いことを痛感せざるをえません。

ん。

真に二人が向き合ったり相手を理解しようとしないうまま、また本来は大人間の問題であるのに子どもをだしにしたり、子どもにも過重な責任を押し付けて別れるか、または別れないものの、内実はずっと心を閉ざしたままの「家庭内離婚」状態で過ごすだけの「危険」に陥るのか。それとも互いの成長や理解につながるような、また大人が子どもとの心理的な境界を築けたり、双方が納得の上でカップルとしてやり直す、または別れゆくという一歩を踏み出したりする「機会」となるのか。カップルカウンセリングのカウンセラーは、カップルの危機が「機会」となるよう助力する、と言えるのではないのでしょうか。

カップルにとって「危機」が機会となるために

そのためには、カウンセラーはどうかしらよいのでしょうか。まずは、

双方の不平不満などをよく聴き、その不平不満の根底のところまで、何を相手に、また二人の関係に求めているのかを、本人たちと共に丁寧に探ってゆくこと、またカップルが互いに、今までは違ったモードや心持ちで相手の不平不満などを聴けるようになるための工夫や働きかけを行うこと、このへんが初めの一歩となります。相手に対する不平不満があることは、まだその二人の関係に絶望しきっていないことを端的に示しているのですが、往々に、カップルのご本人たちは、非生産的でしかない罵り合いに終始していたり、一方的な支配・従属関係に縛られていたり、はたまたまた喧嘩もできずに互いのエネルギーが消耗されるだけの、いわば氷漬けのような状態になっていたりしがちです。

ですので、不平不満を手掛かりにすることが第一歩とはいえ、いつもすぐにそれを行えるとも限りません。カップルカウンセリングにいらした

ことを十分にねぎらいながら、カップルの双方から「このカウンセラーは両方の言い分や思いを大切にしようとする、フェアな人」と感じてもらい、最低限の合格点をもたらえるかどうか最初の決め手となります。そしてカップルが徐々に、相手への、また自分への凝り固まっていた認知をほぐしていき、さらに自他のリアルな感情を理解し、それを生産的に表現できるようにしていくこと、それらに向けての支援が必要となります。そして対個人のカウンセリング以上に、カウンセラー自身のカップル・家族・性などへの価値観やジェンダー観などについて、そういったものが悪しきバイアスとして作用しないためにも、自己検討が常に不可欠であることを強調したく思います。

志のようなものはありますか？

富樫：あまり志はないです（笑）。一つはいっぱい読んでくれるから。英語は世界で第2位の言語ですからね。中国語は第1位ですけど、中国の人は英語を読みますから英語で書くとやっぱり強いですよね。僕の考えを読んでくれるから。どんなに日本語で書いたって世界の人は読んでくれないですもん。あとは楽しいのと、書く時はほとんど日本語に訳さないで、自然に英語で書いている感じです。英語で書いているものは、IAPSP 国際自己心理学会と台湾の自己心理学研究会で発表した論文がほとんどなんですけど、彼らは明るくて楽しい。だから書いています。向こうはオリジナリティのある論文を認めてくれる。間違ってもいい。だから書けるんです。日本では誰々がこう言っているというのが多い。オリジナルなことを言うとか叩かれるからだと思いますけど。本を出すと、向こうはちゃんと応答してくれます。ちゃんと評価してくれる。リスペクトしてくれる。

——新書の紹介

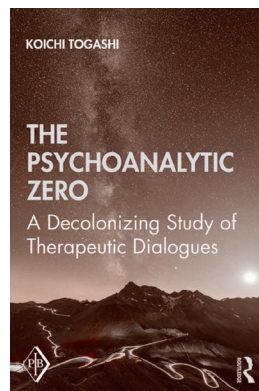
富樫：簡単に言えば治療するとなると、どんな理論で患者さんをアセスメントして、どのような方法で治療をするか、患者を変えるかという話にやはりなる。いわゆる HOW TO ですよ。それはたくさん語られている。ほぼ今の臨床心理学で教えられているのはそれに近いものだと思います。それも大事だと思いますし、忘れてはいけないことだと思います。でも本当に我々は人を正確に、的確に診断し、アセスメントすることができるのか？ それから（どのような心理療法においても）私たちが妥当だと思っている理論や治療方法というものが本当に治療効果を持っているのか？ ということを丁寧に検証すると、本当のところは分からないんじゃないかと思うんですよ。これは人間的な意味じゃなくて。別に人類愛とかそういう話ではなくてね。ゼロはなにかと言うと、言葉や概念がつけられないモーメントの話です。言葉で世の中を区切るといのは、道教の発想から借りてきたんですけど、世の中を外傷化させる要素だと思っています。大きい・小さい、美しい・醜い、病気の人・病気でない人、良い人・悪い人、こ

の区別に人は振り回され、苦しみますよね。差別の要素でもあります。

——マイノリティであっても、変な人ではない

富樫：高校生や大学生に言いたいのは、大学に入ったら「自分の頭で考えなさい」と言われる。でも大学の先生も自分の頭で考えるのが難しい。人の言っていることは正しいと思ったり、あの学生はダメだ、この学生はできるとか簡単に区別する。私たちは他人の言葉や文化によるものの見方や考えに縛られて生きているので、その中でさらに私の考えはどこにあるんだろう？ とか、私の見ている世界は本当にこういう見方だけなんだろうか？ というのを見て欲しいです。僕もまだまだなんですけど……。それこそアメリカでは色んな人種がいて、真夏でもコートを着込んでいる人がいたり、真冬でもノースリーブの人がいる。でもみんなそれぞれ理由があるんです。それは変ではない。マイノリティではあるけど、変な人じゃない。本人には何か理由があるだけなんです。髪の毛が赤かろうがどうであろうが。でも、そういう感覚がこの国（日本）にいるとすごく制限されるので、自分の見たものを振り返ることと自分の考えをずっと探し続けて欲しいです。

- *1 Gradiva Award in Best Student Article (National Association for the Advancement of Psychoanalysis). Title: A New Definition of Twinship Selfobject Experience and Transference.
- *2 Gradiva Award in Best Journal Article (National Association for the Advancement of Psychoanalysis). Title: The Romantic Fantasy and Its Vicissitudes: A Self Psychological Reconsideration of 'Hysterical Fantasy' and the Eroticized Transference.



富樫公一

（とがし・こういち）

甲南大学教授。TRISP自己心理学研究所精神分析家、ニューヨーク州精神分析家ライセンス、臨床心理士、公認心理師。

WORLD MAP

国際的に活躍する日本人臨床心理士をご紹介します

富樫公一先生

インタビューー 福岡県立大学人間社会学部 池 志保

米国と台湾を中心に国際的に第一線でご活躍している富樫公一先生を本誌でご紹介いたします。富樫先生は臨床心理学系国際学会学術誌での論文が多数あり、国際的に大きな反響を得た“KOHUT'S TWINSHIP ACROSS CULTURES”（出版社 Routledge）の英語著書に続いて、昨年は英語新書“THE PSYCHOANALYTIC ZERO”（出版社 Routledge）を出版されるなど、意欲的に活動しておられます。IAPSP 国際自己心理学学会評議員、同学会誌 Psychoanalysis, Self and Context 編集委員も長年務められ、2023年にはIAPSP 国際自己心理学学会年次大会（東京大会）実行委員長への就任も決まりました。英語を流暢に話す富樫先生の人脈で海外研究者を日本に招待した講演会も多数開催してきています。日本人でこれほどまでに海外の研究者たちと肩を並べ、臨床心理学系の国際学会を牽引・運営している臨床心理士はそう多くはないのではないのでしょうか。富樫先生へのインタビューで、その秘密に迫りたいと思います。

—アメリカでの徹底したトレーニング体験

富樫：2001年に渡米して、2006年までアメリカにいました。最初はNPAP（National Psychological Association For Psychoanalysis）というニューヨークの研究所に2年間いました。元々やりたかったのが自己心理学や間主観性理論だったので、TRISP（Training and Research in Intersubjective Self Psychology）に移籍して3年間、合計5年間いました。向こうのトレーニングですることは決まっていて、教育分析、スーパービジョン、コースワーク（授業）です。

池：アメリカでのトレーニング中に困ったことはなかったですか？ 逆に良かったことは？

富樫：もうそんなこと言ったら、きりがありませんよ（笑）。良いところから言うと、授業のスタイル自体がとっても勉強になったというか。

日本の授業みたいに先生の話を一方向的に聞いているっていうのは全然ないので、とにかくディスカッションが多いです。どんな意見であれ、自分の意見をちゃんと言うこと。意見を言うためには人の考えを聞いてないといけないし、そういうのをすどく求められました。それが勉強になりました。あとは精神分析に限って言えば、リサーチの授業（事例研究論文執筆）がありました。日本ではなかなかないので、向こうでの精神分析に特化した事例研究論文の授業は本当に勉強になりました。僕が日米で事例論文や本を書いているのも、あの授業がなかったら成り立っていない。あとは、授業のスタイルとしては文献が多い。とにかく本を読みなさいという。ニューヨークタイムズは必ず読みなさいとかね。本を読んでいることを前提で、授業で「はい、ディスカッションを始めましょう」とかね。それで辛かったというのは、ディスカッションについていくのが本当に至難の技で……。最初の半年くらいはずっと泣いていましたよ。

池：富樫先生が泣いていたんですか!? そんなイメージがないです。

富樫：泣いていましたよ。全然、英語が分からない。ニューヨーカーは他の1.5倍くらい喋るのが速いって言いますから、話が次々と展開していく。ついていけないから、自分を無力に感じていましたよね。ただ、やがて修了論文はNAAP精神分析学会というところがやっている訓練生の最優秀学生論文賞（グラディーバ賞^{*1}）をいただきましたし、最優秀ジャーナル賞（グラディーバ賞^{*2}）をとりました。

池：すごいですねえ！ 最初は泣いていたのが、最終的には賞までとられたんですね。

—海外ではオリジナリティのある論文を認めてくれる文化が強い

池：海外で英語の著書を出版されている目的や

広島大学

広島大学名誉教授 / H-I-C-P 東広島心理臨床研究室 岡本祐子

心理臨床家養成の長い歴史と臨床教育の特徴

広島大学大学院は、二〇二〇年度に全学改組し、これまでの教育学研究科心理学専攻心理臨床学コースは、人間社会科学研究科人文社会科学専攻心理学プログラム臨床心理学実践・研究コースとして新しくスタートしました。公認心理師と臨床心理士の二つの資格を取得できるカリキュラムを設定し、これまで五〇年の心理臨床家養成の歴史と実績を基盤として、実践力と研究力の双方を身につけた心理臨床家の養成をめざしています。

広島大学の心理臨床家養成は、わが国の心理臨床家養成の歴史と歩を一にした五〇年の長い伝統を持っています。一九七一年、教育学部心理学講座に鑪幹八郎先生（現在、広島大学名誉教授）が着任され、広島に心理臨床の芽が生まれました。その後まもなく教育学部に心理教育相談室が開設され、心理臨床家をめざす大学院生の訓練と社会貢献をめざして、地域に開かれた心理臨床活動が始まりました。当時はまだ、「臨床心理士」資格もない時代でしたが、

広島大学心理教育相談室は、わが国の心理臨床家養成の先駆的な機関の一つでした。臨床実践を重視し、一つ一つの事例を深く理解する研鑽の伝統はその後受け継がれ、今日まで数多くの有能な臨床心理士を輩出してきました。

二〇〇一年度に（財）日本臨床心理士資格認定協会から第I種指定校の認定を受け、翌年には研究科附属心理臨床教育研究センターが設置され、臨床心理士養成の教育体制が整備されました。また、力動的心理療法を中心としながらも、認知行動療法や来談者中心療法も学べるように、臨床心理学の教員の専門領域を拡大



あなたのこころの健康をサポートします

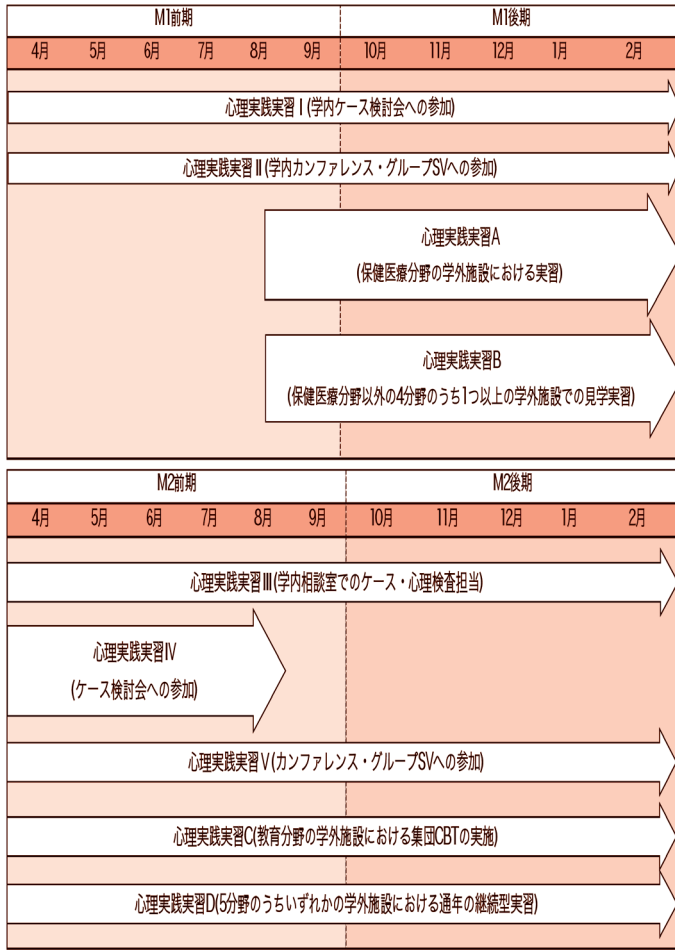
広島大学 心理臨床教育研究センター HPより

広島大学の公認心理師養成カリキュラムの特徴

してきました。毎年一五名程度の公認心理師・臨床心理士をめざす大学院生が入学しています。

二〇一五年九月の国家資格公認心理師法の成立に伴い、広島大学はカリキュラムを大幅に見直し、二〇一

八年度より臨床心理士養成とともに公認心理師養成を開始しました。その特徴の一つは、①これまで五〇年間の心理臨床家養成経験の蓄積を生かした心理臨床実践力のあるスペシャリストと、②実践力のある研究者／研究力ある実践家の道のいづれも選択できることです。(詳しくは広島大学心理学教室のHPをご覧ください。
<https://home.hiroshima-u.ac.jp/psych/>



広島大学大学院における心理実践実習のスケジュール

公認心理師・臨床心理士をめざす大学院生は、全員が心理臨床教育研究センターの相談員となり、博士課程前期(M)一年生の前期からケースカンファレンスおよび事例検討会に参加します。一年生の後期から事例を担当し始めます。それに先立ち、全員が学外ス

[index.html](#))

大学院「心理実践実習」は、これまでの学外臨床実習先であった病院、児童養護施設、教育センター相談室などの協力を得て、医療、福祉、教育分野を中心に行っています。また、教育臨床の分野として新たに、広島市内の高等学校と連携して高校生を対象とした集団認知行動療法のプログラムを開発し、実践しています。

地域の心理臨床家とともに
心理臨床家養成

広島大学の心理臨床家養成の大きな力になっているのは、学外スーパーヴァイザー制度です。これまでの長い心理臨床教育の中で育まれた多くの修了生が地域の大学や臨床施設で活躍しており、そのベテラン・中堅の心理臨床家が、スーパーヴァイ

博士の学位を持った心理臨床家
(Scientist-Practitioner)の
養成

パーヴァイザーについて、試行カウセンディングの段階から個別のスーパーヴィジョンを受けます。以後、博士課程後期(D)を含めて、大学院修了まで担当する事例の個別スーパーヴィジョンを受けることが義務付けられています。後進の臨床教育に協力を惜しまない学外スーパーヴァイザーの数が多く、本学のありがたい特徴の一つです。

広島大学の心理臨床家養成におけるもう一つの特徴は、博士の学位をもった臨床心理士(これからはそれに加えて公認心理師)の養成をめざしていることです。博士課程前期修了後、臨床心理士・公認心理師の資格を取得するだけでなく、博士課程後期に進学して博士(心理学)の学位を取得し、大学での次世代の専門家養成に携わったり、現場で指導的臨床臨床家になるといふキャリア・ヴィジョンを教員と院生が共有し良い成果をあげています。

札幌国際大学

大学の概要

本学心理学科は、二〇〇一年「こころの時代に貢献できる実践家養成」をキーワードとして創設されました。本学の前身である静修女子短期大学（一九六九年創設）・静修女子大学（一九九三年）時代から「社会に貢献できる実務家養成」が教員の根幹に置かれてきました。その伝統を心理臨床の領域でも実践していくこうとする大学の教育理念と社会の要請の中で、本学の心理臨床家養成は脈々と地道に行われてきたと言えます。

現在、心理学科は「臨床心理専攻」と保育者・幼児教育者を旨とする「子ども心理専攻」の二専攻から成り（二〇〇八年）、一種指定大学院として臨床心理士養成教育を行ってきた大学院心理学研究科は、新たに公認心理師養成も並行して行うことになりました。六ヶ年一貫した流れで心理臨床家を養成する道がより確実になったように思います。

両資格が共に受験可能であることの魅力はありますが、一方で過密なカリキュラムなど課題も多いと感じます。教育カリキュラムの整備や運用を巡る模索や工夫は始まったばかりなのに二〇二〇年度を迎えた途端

札幌国際大学人文学部心理学科

佐々木淑子

のコロナ問題。学外・学内両実習もままならない状況でどうなるのやら……。ともあれ、本学における心理臨床家養成の一端をお示しします。

大学院生の学内実習機関として、また、学部生に対しても広く体験的教育活動のフィールド提供施設として機能すべく努める本学心理相談研究所の活動について触れていきます。

心理相談研究所——面接室での体験と地域援助体験を並行する実習教育

私は、本研究所所長であった十数年間、臨床心理士志望の大学院生に生の臨床感覚を本施設でどう積んでもらうか、さらに、心理学科の特質

を活かした活動を地域に向けてどう発信し根付かせていくかと考えながら、以下に述べるような諸事業を展開してきました。

《面接室での体験——大学院における実習システム》

M1の春学期開講の基礎実習や講義・演習の授業を通して、ケースに出会う前の基本となる職業倫理など対人援助に携わることの意味を学びます。その上で、事務室での電話受付実習を経て陪席実習へと、さらに、M1秋学期に実施される心理学研究科教員によるケース担当審査を合格後、以下の①、②のケースを担当、各々に応じた実習を受けます。

①心理検査実習…見立ての一環としての教員もしくは相談員によるアセスメント面接への陪席、指導教員の下での心理検査の施行およびデータ処理、被検者や保護者、連携先の機関などそれぞれに応じた報告書執筆、教員もしくは相談員によるフィードバック面接への陪席、さらにそれらの過程を学内授業で振り返るまでを含みます。



研究論文を並行させながら執筆する作業は、非常に労が多いのですが、事例として振り返り文章化することで、新たな気づきを得たり、心理臨床家としての自分の特性や課題を見つめることができるなど、欠かせないプロセスと思います。

《地域援助体験》

以下の三つの活動は、いずれもほぼ一〇年もしくはそれ以上にわたり継続されています。

①子育て支援活動は「子ども心理専攻」が開設されたことを機に、主に子ども心理専攻教員の手で始められ、毎回地域の親子が五〇名ほど参加し年八回行われます。

現在は、学生の種々の授業にも組み込まれていて、学生のサークルと教員の協力により諸プログラムを企画・運営しています。

②地域支援に携わる多職種八〇名前後が年一回会する「合同セミナー」では、心理職だけの事例検討会と

は一味違う、他職種（多くは保育職）が現場で抱える困難事例の提示を通して、多角的な視点から討論されます。

大学院生は、①②に実習授業という形で参加、地域の方々や多職種との交流を体験しながらコミュニケーション感覚を養います。また、合同セミナーで助言者としてお願いしてきた青木紀久代先生などから、

他職種へ心理学の概念を平易に伝えることの大事さを、学生ともども私たち教員も学ばせて頂いています。

③朗読会は、文学作品の朗読とピアノ演奏の共演という年一回のエンターテイメント的行事ですが、そこに心理学的テーマの解説を盛り込むことで、地域に向けたメンタルヘルス向上の心理教育的役割

の一助にもなっていると自負しています。

こちらの内面にも、地域に生きる生活者へも想いを馳せられる心理臨床家が育ってほしいと願っています。



大学のフィールドでのいちご狩り——子育て支援活動から

②心理面接実習・プレイセラピーと言語面接両方を体験できるよう担当ケースを組んでいます。各セッションのスーパーヴィジョンを重ねて、研究科教員や外部招聘の助言者を交えた事例検討会への発表や討論を経てケース理解を深めます。年度末には、本研究所発行の所報掲載に向けて体験した一ケースを事例研究論文としてまとめます。修士論文と事例

居るのはつらいよ——ケアとセラピーについての覚書

東畑開人〔著〕 医学書院、二〇一九年



のぞえ総合心療病院 本田賢介

心理臨床におけるケアとセラピー という問いに対して真正面から取り組まれた学術書

「居るのがつらい」という体験は、皆さんも一度はあるのではないでしょう
か？ 新しい学校や職場で、どこに居たらよいか分からなく落ち着かないときはないでしょうか？

副題に書いてあるケアとは「傷つけないこと」、セラピーとは「傷つきに向き合うこと」という側面を持っています。心が傷ついたときには、傷を癒す時間や場所としての「ケア」が必要です。そして、前に進んだり変わりたいと願うときに、人は

自身の傷つきに向き合う「セラピー」が必要だったりします。

本書は、臨床心理士（以下シンリシ）や援助職の方をはじめ、シンリシを目指している人にオススメの1冊です。その理由は、今、貴方に出会って欲しい物語がこの本にあるからです。

主人公である著者は、京大卒博士シンリシとして、意気込んで臨床の野（沖繩の精神科クリニック）に飛び込んでいきますが、最初の仕事は「ただそこに座っている」ことでした。セラピーという人の深層に触れる「心の治療」に憧れていたシンリシに待ち受けていた現実とは、デイケアという風の時間でメンバー（利用者さん）と共に時間を過ごしていくケアの仕事でした。著者のデイケア臨床での日々がエッセイ調かつ物語として書かれており、デイケアでの人間関係やそこで起こる事件を、臨床心理学やポストモダン哲学、社会学などを用いて紐解いていきます。

舞台はデイケアですが、私たちシンリシが普段の臨床で感じる疑問や謎について、著者が専門的な知識を交えながら、分かりやすくそして深く考察してくれます。

シンリシが関わり、出会うクライエントは、様々な場所で「居づらかった」経験をされていることが多いです。不登校や引きこもり、虐待や家庭環境、職場での人間関係や対人不安など人によって抱えられている悩みは違います。

しかし、人は皆同じように誰もが傷つきやすさを持ち合わせ、内側に抱えています。それは時々、日常を脅かし、食い散らかし、言うことを聞かない怪物になったりします。

「僕らの日常だって同じだ。〈中略〉上司に叱責されたり、信頼している人に裏切られたり、恋に落ちたりすると、ありふれた日常がいつも簡単に焼け落ちる。心にくすぶっていた火種が、一気に燃え広がる。すると、いつもの自分と違う自分が出てくる。

そして、学校に行けなくなったり、大切な人間関係を壊してしまったりする。当たり前だったはずの「いる」ことが不可能になる。」（本書八〇頁）

「ただ、いる、だけ」にケアの本質を見出しながらも、「本当にそれでいいのか」と自問するシンリシの苦悩と格闘の日々は読んでいて引き込まれていきます。本書を読まれる多くの読者、特にシンリシや援助職の方は著者と同じようにもがき、悪戦苦闘した日々を想うのではないでしょう
か。若手シンリシの私は重なりを感じずにはいられませんでした。今自信がなく落ち込まれていたり、悩まれているシンリシの方に読んでみて欲しいです。本当にとても面白く、泣けて笑えて励まされ、著者が「居るのはつらいよね」と語りかけてくれる本です。

本書を読んで私は明日からも「シンリシ」で「いること」が頑張れそうな気がしました。



大妻女子大学 西河正行

前号「心理臨床の広場」(Vol.12 No.6)の巻頭言に、横山知行先生がある講習会での話し合いの様子を書かれています。テーマは、クライエントに「死んだ方が楽かな……秘密にしてほしい……先生だからやっと話せた」と告白された時、カウンセラーとしてどう対応するか、でした。私のブックガイドはこのテーマを引き継いでいます。

自分がカウンセラーだとして、このように告げられた時の気持ちを想像してみてください。信頼されて嬉しいと思う反面、困った、どうしようかと動揺するのではないでしょうか。

『恥と意地——日本人の心理構造』(鑑幹八郎、講談社現代新書、一九九八)で鑑先生は、日本人は昔から他人に対し恥ずかしい生活をしてない、体面を重んじ、欲しくとも意地でも我慢してきた。日本の文化は「恥の文化」「意地の文化」であったが、近年、日本人は、他人に迷惑をかけても自分の欲望を満たすことを諦めず「恥知らず」の行動を取るようになったと指摘しています。恥、意地、罪悪感などは臨床的にも非常に重要なテーマです。

同書を手掛かりにこの場面を考えてみます。「秘密にして」と言われ、カウンセラーでいる「建前」の自分に、「突然の照明」が当てられ、一人で責任なんか取れるだろうか、できるなら逃げ出したいと、緊張し、うろたえる「本音」の自分に直面してしまふ。責務を放り出せば人に指弾され、自分でもダメな奴だと恥じることになる。突然の照明は「誇大な自分」と「つまらない自分」を

照らし出す。理想の自分から見ても、周囲の期待に対しても、適切に対処できない自分は恥ずかしい。おまけに、逃げたら、恥ずかしいだけでなく、罪悪感にも苛まれる。

さて、本稿では、『曠野の花——新編・石光真清の手記(二) 義和団事件』(中公文庫)を紹介します。

石光は明治の陸軍謀報将校でした。本書から、石光も含め昔の日本人の心意気を感じできます。例えばお米という女性は貧困から満州に渡り娼婦になり、戦争に巻き込まれ死地を石光に救われます。その後、馬賊の頭目の妾となり、石光がその馬賊に囚われ瀕死の時に救い出しました。その時、お米は馬賊から「お前を信じて石光を信じるが、もし裏切ったら、どんなに逃げてでも必ずお前を探し出して八つ裂きにする」と脅されました。信義を問われたお米は「私も日本の女です。恩を仇でかえずようなことは致しません。もしそのようなことがあったら、八つ裂きなり

と何なりとお心のままにして下さい」と啖呵を切ります。彼女は信じてくれた人を裏切るのには、人としても、日本の名誉のためにも恥ずかしいことだと「意地」を示したのでした。

私は、お米が貧しさから苦海に身を沈めた恥ずかしい身であっても、「恥知らず」になることをよしとせず踏みとどまったことに心意気を感じます。臨床でも、クライエントを「意地」でも責任をもって引き受けようと覚悟する。空意地でも意気地なしでもなく、踏みとどまり、自分の「恥」と「罪悪感」に向き合い、自分に投げかけられた告白の意味を考える。誠実にクライエントに向き合うこと、信頼に応えようとすること、逃げないこと、それが臨床家に必要な心構えだと思います。

私の勤務先、大妻女子大学の校訓は、大妻コタカの「恥を知れ」です。厳しい言葉に、「恥知らず」な自分から逃げてはいけなと思っています。

臨床心理士資格審査の受験資格を 取得することができる大学院

(2020年7月1日時点)

◆北海道

北海道大学大学院教育学院
札幌学院大学大学院臨床心理学研究科
札幌国際大学大学院心理学研究科
北翔大学大学院人間福祉学研究科
北星学園大学大学院社会福祉学研究科
北海道教育大学大学院教育学研究科*

◆東北

岩手大学大学院総合科学研究科
岩手県立大学大学院社会福祉学研究科*
東北大学大学院教育学研究科
尚絅学院大学大学院総合人間科学研究科
東北福祉大学大学院総合福祉学研究科
秋田大学大学院教育学研究科
山形大学大学院地域教育文化研究科
福島大学大学院人間発達文化研究科
医療創生大学大学院人文学研究科
福島学院大学大学院心理学研究科

◆関東

茨城大学大学院教育学研究科
筑波大学大学院人間総合科学研究科
常盤大学大学院人間科学研究科
作新学院大学大学院心理学研究科
東京福祉大学大学院心理学研究科
跡見学園女子大学大学院人文学研究科
埼玉学園大学大学院心理学研究科
埼玉工業大学大学院人間社会研究科
駿河台大学大学院心理学研究科
東京国際大学大学院臨床心理学研究科
人間総合科学大学大学院人間総合科学研究科
文京学院大学大学院人間学研究科
文教大学大学院人間科学研究科
立教大学大学院現代心理学研究科
早稲田大学大学院人間科学研究科
川村学園女子大学大学院人文学研究科
淑徳大学大学院総合福祉研究科
聖徳大学大学院臨床心理学研究科
放送大学大学院文化科学研究科*
帝京平成大学大学院臨床心理学研究科**
お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科
東京大学大学院教育学研究科
青山学院大学大学院教育人間科学研究科
桜美林大学大学院心理学研究科
大妻女子大学大学院人間文化研究科
学習院大学大学院人文学研究科
国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科
駒沢女子大学大学院人文学研究科
駒澤大学大学院人文学研究科
上智大学大学院総合人間科学研究科
昭和女子大学大学院生活機構研究科
白百合女子大学大学院文学研究科
聖心女子大学大学院文学研究科
創価大学大学院文学研究科
大正大学大学院人間学研究科
帝京大学大学院文学研究科
東京家政大学大学院人間生活学総合研究科
東京女子大学大学院人間科学研究科
東京成徳大学大学院心理学研究科
東洋英和女学院大学大学院人間科学研究科
日本女子大学大学院文学研究科
法政大学大学院人間社会研究科
武蔵野大学大学院人間社会研究科
明治学院大学大学院心理学研究科
明治大学大学院文学研究科

明星大学大学院人文学研究科
目白大学大学院心理学研究科
立正大学大学院心理学研究科
ルーテル学院大学大学院総合人間学研究科
東京学芸大学大学院教育学研究科*
東京都立大学大学院人文学研究科*
中央大学大学院文学研究科*
横浜国立大学大学院教育学研究科
神奈川大学大学院人間科学研究科
北里大学大学院医療系研究科
専修大学大学院文学研究科
東海大学大学院文学研究科
日本女子大学大学院人間社会研究科

◆中部

上越教育大学大学院学校教育研究科
新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科
新潟大学大学院現代社会文化研究科*
金沢工業大学大学院心理学研究科
仁愛大学大学院人間学研究科
山梨英和大学大学院人間文化研究科
信州大学大学院教育学研究科
岐阜大学大学院教育学研究科
東海学院大学大学院人間関係学研究科
静岡大学大学院人文社会科学研究科
常葉大学大学院健康科学研究科
愛知教育大学大学院教育学研究科
名古屋大学大学院教育発達科学研究科
名古屋市立大学大学院人間文化研究科
愛知学院大学大学院心身科学研究科
愛知淑徳大学大学院心理医療科学研究科
金城学院大学大学院人間生活学研究科
椋山女学院大学大学院人間関係学研究科
中京大学大学院心理学研究科
同朋大学大学院人間福祉研究科
日本福祉大学大学院社会福祉学研究科
人間環境大学大学院人間環境学研究科
鈴鹿医療科学大学大学院医療科学研究科

◆近畿

京都大学大学院教育学研究科
京都教育大学大学院教育学研究科
京都光華女子大学大学院心理学研究科
京都先端科学大学大学院人間文化研究科
京都橘大学大学院健康科学研究科
京都ノートルダム女子大学大学院心理学研究科
京都文教大学大学院臨床心理学研究科
同志社大学大学院心理学研究科
花園大学大学院社会福祉学研究科
佛教大学大学院教育学研究科
龍谷大学大学院文学研究科
帝塚山学院大学大学院人間科学研究科**
大阪大学大学院人間科学研究科
大阪市立大学大学院生活科学研究科
大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科
追手門学院大学大学院心理学研究科
大阪経済大学大学院人間科学研究科
大阪樟蔭女子大学大学院人間科学研究科
関西福祉科学大学大学院社会福祉学研究科
近畿大学大学院総合文化研究科
梅花女子大学大学院現代人間学研究科
立命館大学大学院人間科学研究科
神戸大学大学院人間発達環境学研究科
兵庫教育大学大学院学校教育研究科
関西国際大学大学院人間行動学研究科
甲子園大学大学院心理学研究科
甲南女子大学大学院人文学総合研究科
神戸松蔭女子学院大学大学院文学研究科
神戸女学院大学大学院人間科学研究科
神戸親和女子大学大学院文学研究科
武庫川女子大学大学院文学研究科

奈良女子大学大学院人間文化研究科
帝塚山大学大学院心理科学研究科
天理大学大学院臨床人間学研究科
奈良大学大学院社会学研究科
◆中国
鳥取大学大学院医学系研究科
岡山大学大学院教育学研究科
岡山大学大学院社会文化科学研究科
川崎医療福祉大学大学院医療福祉学研究科
就実大学大学院教育学研究科
ノートルダム清心女子大学大学院人間生活学研究科
広島国際大学大学院心理科学研究科**
広島大学大学院教育学研究科
比治山大学大学院現代文化研究科
広島修道大学大学院人文学研究科
広島文教女子大学大学院人間科学研究科
安田女子大学大学院文学研究科
山口大学大学院教育学研究科
宇布フロンティア大学大学院人間科学研究科
東亜大学大学院総合学術研究科

◆四国

徳島大学大学院総合科学教育部
鳴門教育大学大学院学校教育研究科
徳島文理大学大学院人間生活学研究科
香川大学大学院教育学研究科
愛媛大学大学院教育学研究科

◆九州

九州大学大学院人間環境学府**
九州大学大学院人間環境学府
福岡県立大学大学院人間社会学研究科
九州産業大学大学院国際文化研究科
久留米大学大学院心理学研究科
西南学院大学大学院人間科学研究科
筑紫学園大学大学院人間科学研究科
福岡女学院大学大学院人文学研究科
福岡大学大学院人文学研究科
西九州大学大学院生活支援科学研究科
長崎純心大学大学院人間文化研究科
大分大学大学院教育学研究科
別府大学大学院文学研究科
鹿児島大学大学院臨床心理学研究科**
鹿児島純心女子大学大学院人間科学研究科
志摩館大学大学院心理臨床学研究科

◆沖縄

沖縄国際大学大学院地域文化研究科
琉球大学大学院人文社会科学研究科*

- 臨床心理士になるには、財団法人日本臨床心理士資格認定協会が指定する上記大学院（以下、指定大学院）を修了し、「臨床心理士資格審査」の受験資格を取得しなければなりません。
- 臨床心理士養成大学院は「第1種指定校」「第2種指定校」「専門職大学院」の3種があります。上記一覧で*つきは第2種指定校、**つきは専門職大学院、無印は第1種指定校です。
- 第1種指定校の場合、大学院修了後に直近の試験を受験することができます。第2種指定校の場合、受験資格を得るためには実務経験1年が必要です。専門職大学院は第1種と同じ扱いです。試験科目のうち小論文が免除されます。

◆大学・大学院 (50音順)

愛知学院大学心身科学部、同大学院心身科学研究科
 愛知教育大学教育学部、同大学院教育学研究科
 愛知みずほ大学人間科学部
 愛知淑徳大学心理学部、心理医療科学研究科
 青山学院大学教育人間科学部、同大学院教育人間科学研究科
 秋田大学教育文化学部、同大学院教育学研究科
 跡見学園女子大学心理学部、同大学院人文科学研究科
 茨城キリスト教大学生生活科学部
 医療創生大学心理学部、同大学院人文科学研究科
 岩手県立大学社会福祉学部、同大学院社会福祉学研究科
 宇部フロンティア大学人間社会学部、同大学院人間科学研究科
 追手門学院大学心理学部、同大学院心理学研究科
 江戸川大学社会学部
 桜美林大学健康福祉学群/リハビリアーツ学群、同大学院心理学研究科
 大分大学福祉健康科学部、同大学院教育学研究科
 大阪大学人間科学部、同大学院人間科学研究科
 大阪経済大学人間科学部、同大学院人間科学研究科
 大妻女子大学人間関係学部、同大学院人間文化研究科
 大阪府立大学現代システム科学域、同大学院人間社会科学部
 沖繩国際大学総合文化学部、同大学院地域文化研究科
 お茶の水女子大学生生活科学部、同大学院人間文化創成科学研究科
 金沢大学人間社会学域
 金沢工業大学情報フロンティア学部、同大学院心理学研究科
 鎌倉女子大学児童学部、同大学院児童学研究科
 関西福祉科学大学心理学部/健康福祉学部、同大学院社会福祉学研究科
 関西学院大学文学部、同大学院文学研究科
 北里大学医療衛生学部、同大学院医療系研究科
 吉備国際大学心理学部、同大学院心理学研究科
 九州産業大学人間科学部、同大学院国際文化研究科
 九州保健福祉大学臨床心理学部
 九州ルーテル学院大学人文学部
 京都大学大学院教育学研究科
 京都光華女子大学健康科学部、同大学院心理学研究科
 京都先端科学大学人文学部、同大学院人間文化研究科
 京都ノートルダム女子大学現代人間学部、同大学院心理学研究科
 京都橘大学健康科学部、同大学院健康科学研究科
 京都文教大学臨床心理学部、同大学院臨床心理学研究科
 杏林大学保健学部
 近畿大学総合社会学部、同大学院総合文化研究科
 金城学院大学人間科学部、同大学院人間生活学研究科
 久留米大学文学部、同大学院心理学研究科
 甲子園大学心理学部、同大学院心理学研究科
 甲南大学全学部で対応
 甲南女子大学人間科学部、同大学院人文科学総合研究科
 神戸大学国際人間科学部、同大学院人間発達環境学研究科
 神戸医療福祉大学社会福祉学部

神戸学院大学心理学部、同大学院心理学研究科
 神戸松蔭女子学院大学人間科学部、同大学院文学研究科
 神戸学院大学人間科学部、同大学院人間科学研究科
 駒沢女子大学人間総合学群、同大学院人文科学研究科
 埼玉学園大学人間学部、同大学院心理学研究科
 埼玉工業大学人間社会学部、同大学院人間社会研究科
 札幌学院大学心理学部、同大学院臨床心理学研究科
 志學館大学人間関係学部、同大学院心理臨床学研究科
 四国大学生活科学部
 静岡大学人文社会科学部、同大学院人文社会科学研究科
 静岡福祉大学社会福祉学部
 島根大学人間科学部、同大学院教育学研究科
 就美大学教育学部、同大学院教育学研究科
 十文字学園女子大学人間生活学部
 淑徳大学総合福祉学部、同大学院総合福祉研究科
 白梅学園女子大学子ども学部
 白百合女子大学人間総合学部、同大学院文学研究科
 仁愛大学人間学部、同大学院人間学研究科
 福山女学院大学人間関係学部、同大学院人間関係学研究科
 鈴鹿医療科学大学保健衛生学部、同大学院医療科学研究科
 駿河台大学心理学部、同大学院心理学研究科
 聖泉大学人間学部
 清泉女学院大学人間学部
 聖徳大学心理・福祉学部、同大学院臨床心理学研究科
 西南学院大学人間科学部、同大学院人間科学研究科
 専修大学人間科学部、同大学院文学研究科
 仙台白百合女子大学人間学部
 大正大学心理社会学部、同大学院人間学研究科
 筑紫女学院大学人間科学部、同大学院人間科学研究科
 中京大学心理学部、同大学院心理学研究科
 中部大学人文学部
 筑波大学人間学群、同大学院人間総合科学術院人間総合科学研究群
 帝京大学文学部、同大学院文学研究科
 帝京平成大学健康メディカル学部、同大学院臨床心理学研究科
 帝塚山大学心理学部、同大学院心理学研究科
 帝塚山学院大学人間科学部、同大学院人間科学研究科
 田園調布学園大学人間科学部、同大学院人間学研究科
 天理大学人間学部、同大学院臨床人間学研究科
 東亜大学人間科学部、同大学院総合学術研究科
 東海大学文化社会学部、同大学院文学研究科
 東京家政大学人文学部、同大学院人間生活学総合研究科
 東京女子大学現代教養学部、同大学院人間科学研究科
 東京成徳大学応用心理学部、同大学院心理学研究科
 東京福祉大学心理学部/社会福祉学部、同大学院心理学研究科
 東京未来大学こども心理学部/モチベーション行動科学部
 同志社大学心理学部、同大学院心理学研究科
 同朋大学社会福祉学部、同大学院人間福祉研究科
 東北学院大学教養学部
 東北福祉大学総合福祉学部、同大学院総合福祉学研究科
 東洋英和女学院大学人間科学部、同大学院人間科学研究科
 東洋学園大学人間科学部
 徳島文理大学人間生活学部、同大学院人間生活学研究科
 長崎純心大学人文学部、同大学院人間文化研究科

長野大学社会福祉学部
 名古屋市立大学人文社会学部、同大学院人間文化研究科
 奈良大学社会学部、同大学院社会学研究科
 鳴門教育大学大学院学校教育研究科
 新潟青陵大学福祉心理学部、同大学院臨床心理学研究科
 新潟リハビリテーション大学医療学部、同大学院リハビリテーション研究科
 西九州大学子ども学部、同大学院生活支援科学研究科
 日本大学文学部、同大学院文学研究科
 日本女子大学人間社会学部、同大学院人間社会学研究科
 日本福祉大学教育・心理学部、同大学院社会福祉学研究科
 人間環境大学人間環境学部、同大学院人間環境学研究科
 梅花女子大学心理こども学部、同大学院現代人間学研究科
 白鷗大学教育学部
 花園大学社会福祉学部、同大学院社会福祉学研究科
 兵庫教育大学大学院学校教育研究科
 広島大学教育学部、同大学院人間社会科学研究科
 広島国際大学心理学部、同大学院心理学研究科
 広島文教大学人間科学部、同大学院人間科学研究科
 福岡大学人文学部、同大学院人文科学研究科
 福岡県立大学人間社会学部、同大学院人間社会学研究科
 福島大学人間発達文化学類、同大学院人間発達文化研究科
 文教大学人間科学部、同大学院人間科学研究科
 文京学院大学人間学部、同大学院人間学研究科
 別府大学文学部、同大学院文学研究科
 放送大学教養学部(全ての科目が開講されるのは2022年度より〔予定〕)
 北翔大学教育文化学部、同大学院人間福祉学研究科
 北海道大学教育学部、同大学院教育学研究科
 武庫川女子大学文学部、同大学院文学研究科
 武蔵野大学大学院人間社会研究科
 明治大学文学部、同大学院文学研究科
 明治学院大学心理学部、同大学院心理学研究科
 明星大学心理学部、同大学院心理学研究科
 目白大学心理学部、同大学院心理学研究科
 安田女子大学心理学部、同大学院文学研究科
 山形大学地域教育文化学部、同大学院地域教育文化研究科
 立教大学現代心理学部、同大学院現代心理学研究科
 立正大学心理学部、同大学院心理学研究科
 立命館大学総合心理学部、同大学院人間科学研究科
 琉球大学人文社会学部、同大学院人文社会科学研究科
 龍谷大学文学部、同大学院文学研究科
 ルーテル学院大学総合人間学部、同大学院総合人間学研究科
 早稲田大学人間科学部、同大学院人間科学研究科
 和洋女子大学人文学部

◆公認心理師法第7条第2号に規定する認定施設
弘前愛成会病院

●本一覧は、日本公認心理師養成機関連盟の2019年度正会員調査(2019年度10月1日時点状況)にご回答いただいた大学・大学院とその後のお入会時アンケートにご回答いただいた大学・大学院(学部等名・研究科等名まで)、及び、認定施設です。詳細は、連盟のホームページに掲載されています。



編集後記

今号の企画を考えるために委員たちが集まったのは、二〇二〇年一月二六日(日)の午後でした。いつもの会議室で、いつものように熱心に話し合いました。厚生労働省検査所のHP記録をみると、同年一月一〇日付けで「中国湖北省武漢市で病因不明の肺炎の集団発生が報告されました」とあるものの、世界中が直撃される事態を、このとき、何人が予測できていただろうかと思いません。

同年三月二日から全国の小中学校などが臨時休校となった後の三月六日に今号の執筆依頼が全執筆者に送られ、原稿メッセが五月一日でした。多くの執筆者は同年四月七日より一部で始まり、四月一六日に全国に広がった緊急事態宣言下で、今号の原稿を執筆したと思われます。その証拠に、記事のあちこちでコロナ禍のことが出てきます。長州力様との巻頭対談は六月七日に都内で行われました。コロナ禍のことや、SNSのこと、直近の事件のことなど、今この時

だからこそその対談になっていていると思います。さて、今号は二つの特集を含めた多彩な内容で、心理臨床実践の多様性を改めて感じます。また、心理カウンセラーという相手を受容し、その語りに耳を傾けるというイメージが主のように思いますが、そうではない心理臨床家の一面を本号の記事の端々から感じます。それは、社会に対して積極的に関与すること、社会へアサーティブな表現をして行くという姿勢です。このことは専門家として責任性を強く伴う行為です。しかし、その決意や厚い思いを本号から感じます。読者はどう感じられたでしょうか。

この「編集後記」を書いているのは七月中旬です。今号をもって私たち委員の任期が終わります。どんな方々がこの「心理臨床の広場」を読んで下さっているのか、ずっと気になっていました。いつものように会って話し合うという当たり前の日常生活や面接場面が、当たり前には行えない事態をコロナ禍で突きつけられた心理臨床家たちは、より実践活動を高めていくでしょう。今この記事を読んで下さっている高校生の貴方へ。数年後に、臨床現場で一緒に働きませんか。心理臨床ワールドに、ようこそ！
(編集委員 津川律子)

事務局だより

春の甲子園大会が中止になりました。卒業式も中止になった学校もあります。入学式を行わない大学もあります。中国の武漢では多くの犠牲者が出ました。ヨーロッパの国々では外出禁止の国もあります。東京オリンピックはどうなるのでしょうか。新型コロナウイルスの影響は甚大です……と、事務局だよりの依頼を受けた三月一八日には緊急事態宣言が出され、他の国々のように都市封鎖には至らなかったものの、外出の自粛や行動制限によりようやく沈静化の方向にあります。しかし夏の甲子園大会も中止になり、東京オリンピックも二〇二一年度に延期されました。一九一八年に始まったスペイン風邪は五〇〇〇万人から一億人の死者を出したと言われていました。その結果、第一次世界大戦の終了が早まったという説もあります。感染症の社会的影響

の甚大さがわかります。

事務局担当としての田中理事長、杉江財務担当理事、それと井村の任期は五月末に終わる予定でした。しかし、緊急事態宣言下で、社員総会の開催もままならず、次にパトナタッチできていないのが現状です。幸いIT機器の発達により、WEBでの会議にもだいぶ慣れてきました。しかし、残念ながら夏の横浜での二〇二〇年度の学術大会は、感染予防のため断念するに至りました。発表の一部については、WEBでの会を開催予定です。事例研究やシンポジウムをどのように行うかは現在検討中です。一〇〇年に一回は、このようなパンデミックも起こるのだと、改めて自覚させられました。何も起きないことがいかに大事なのか、自由で平穏な日常の有難さが身に染み入る頃です。会員のみな様、健康に留意していただき、日々の心理臨床活動や研究、教育に貢献していただくことを願っています。(副理事長 井村修)

心理臨床の広場 25

Vol.13 No.1
2020年8月30日発行

- 広報委員 岩倉拓桑原知子
葛西真記子 津川律子
秋田恭志 西野れい
池井ノ崎敦子 見太
内田亮平 松山孝
佐藤宏花 山口明
柴田彩雅 山崎江
園田真一郎
寺崎一人 畑開人

● 編集協力 / 製作 株式会社創元社
〒541-0047 大阪市中央区淡路町 4-3-6
TEL 06-6231-9010

● 発行 一般社団法人 日本心理臨床学会
〒100-0006 東京都千代田区有楽町 2-10-1
東京交通会館 5 階
TEL 03-6273-4061 FAX 03-5223-2755
ホームページ URL <https://www.ajcp.info/>

● 印刷製本 株式会社太洋社

次回予告 (2021年3月発行)